

平成21年度

教 育 計 画

活気に満ちた伏虎中学校

～美しく、仲良く、静かで、活力ある学校～



和歌山市立伏虎中学校

〒640-8156 和歌山市七番丁25

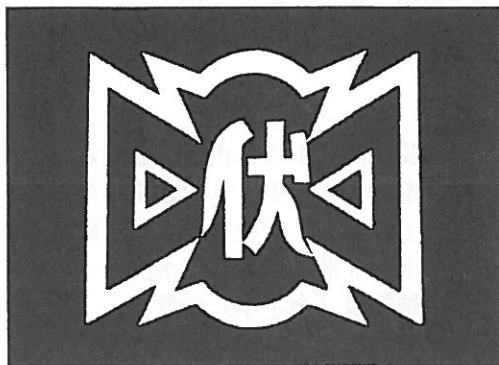
TEL (073) 431-0256(代)

FAX (073) 431-0257番

目

次

校章の由来・伏虎中学校校歌	1
1. 沿 革 概 要	2
2. 校 区 の 概 要	3
3. 校 区 略 図	4
4. 教 育 目 標	5
5. 授 業 時 数	7
6. 週 時 間 配 当	7
7. 校 時 表	7
8. 学 級 編 成	8
9. 卒業生徒数の推移	8
10. 校 舎 略 図	9
11. 校 務 分 掌	10
12. 年間行事計画	11



校章の由来

和歌山市の中心部、本校南側に位置する小高い丘を「虎伏山^{とらふす}」といい、そこにそびえる和歌山城を、別名「伏虎城」という。

校名はこれにちなんで名付けられた。虎は「百獣の王、一日によく千里を走り、千里をもどる」といい、剛健、進取、勇気を象徴する。

伏虎とは若虎、臥竜が雲を得て天に昇るごとく、やがて本校にまなぶ若虎たちが、三ヶ年の忍耐試練の星霜を経て、千里の遠きに駆け出すであろう希望と祈りを「中」の字に「伏」を配し、正面から見た虎の顔を連想させるデザインに表現している。

伏虎中学校校歌

作詞 今井規清
作曲 北原雄一

一、さみどりの 虎伏山を

朝夕に 仰ぎ讃^{たた}えて

新しき まなびの道に

楽しく集う

吾等の学園 おお伏虎中学校

二、紀の川の 流れのごとく

きよらかに 尽くることなき

とこしえの 真理を求め

正しく学ぶ

吾等の学園 おお伏虎中学校

三、うら若き 希望に燃えて

麗^{うる}わしき 文化の国を

打ち建てん 理想をかざし

明るく励む

吾等の学園 おお伏虎中学校

1. 沿革概要

昭和22年 5月 3日	開校式（吹上小7教室、県立工業5教室借用）、生徒数590名、12学級編成
昭和22年 9月10日	県実験学校に指定される
昭和22年10月 2日	7番丁25番地に普通教室12完成、仮校舎3教室、付属室の1棟を譲り受ける
昭和23年 4月 1日	和歌山市紀之川中学校の一部と合併
昭和23年 4月26日	3年生を居住地区の中学校へ転校させる
昭和23年 5月 1日	通信教育部創設
昭和24年 7月20日	校歌を制定する
昭和25年 4月 1日	楠見地区、本校及び河北中の自由学区となる
昭和29年 4月 1日	中之島地区は、本年度1年生より紀之川中の学区となる
昭和31年 1月17日	鉄筋コンクリート造3階、12教室竣工、落成式挙行（北校舎）
昭和37年 3月10日	鉄筋コンクリート造3階、11教室、水洗トイレ竣工、落成式挙行（中校舎）
昭和42年 4月 8日	3年がかりで特殊学級（全学年）設置
昭和44年11月26日	道德教育研究発表会
昭和45年10月27日	美術教育研究発表会
昭和49年 7月 4日	鉄筋コンクリート造4階、12教室竣工（新館）
昭和50年11月20日	本館（特別教室、屋内体育館、職員室等）竣工、落成式挙行
昭和53年 3月15日	市内県立高校普通科南北区分割により本校は南学区となる
昭和53年 3月31日	技術科教室（木工・金工）北校舎南側に完成
昭和57年 4月 1日	楠見中分離独立のため生徒数972名となる
昭和57年 7月 1日	「少年を非行から守るモデル地区」として、本校校区が指定される
昭和58年 4月 1日	文部省より、生徒指導研究推進校としての指定を受ける（2年間）
昭和60年 1月31日	文部省指定生徒指導研究発表会開催
昭和62年 1月19日	中国済南市より学校訪問
昭和63年 4月27日	米国ベーカーズフィールド市スタンダード中学校より学校訪問
平成元年10月12日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成 2年 2月14日	和歌山県教育研究奨励賞（特別活動研究）を受賞
平成 3年 3月20日	和歌山県教育委員会指定研究冊子発表
平成 3年 4月 1日	文部省より教育課程特別活動の研究推進校としての指定を受ける
平成 4年 5月15日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校と姉妹校提携を結ぶ
平成 5年 2月27日	文部省指定、研究冊子発表
平成 5年 4月25日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成 6年 5月18日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成 7年 5月10日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成 8年 5月16日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成 8年11月26日	伏虎中学校創立50周年記念式典挙行
平成 9年 5月 8日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成10年 5月15日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成11年 5月13日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成12年 5月14日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成13年 5月 8日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成14年 5月 9日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成15年 5月 7日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成16年 1月27日	小・中連携英語教育推進地域指定研究発表
平成16年 5月 8日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成16年11月 5日	小・中連携英語教育推進地域指定研究発表
平成17年 5月12日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校より学校訪問
平成18年 5月13日	カナダ国リッチモンド市バーネット中学校へ親善訪問
平成19年 4月 2日	高等学校・中学校「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究事業開始
平成19年 4月 2日	文部科学省指定「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究授業開始（2年間）
平成20年 5月12日	カナダ国リッチモンド市マック・マス中学校へ親善訪問
平成20年10月21日	文部科学省指定「人間としての在り方生き方を考える教育」実践研究発表会開催

2. 校区の概要

本校は和歌山市の中心部、和歌山城の北側に位置し、和歌山市役所、銀行、商工会議所、行政相談所などと隣接している。

校区は次の3小学校よりなる。

(1) 本町小学校区

和歌山市の中心繁華街で、飲食店、各種商店など軒を並べ、娯楽、ショッピングセンターとなっている。

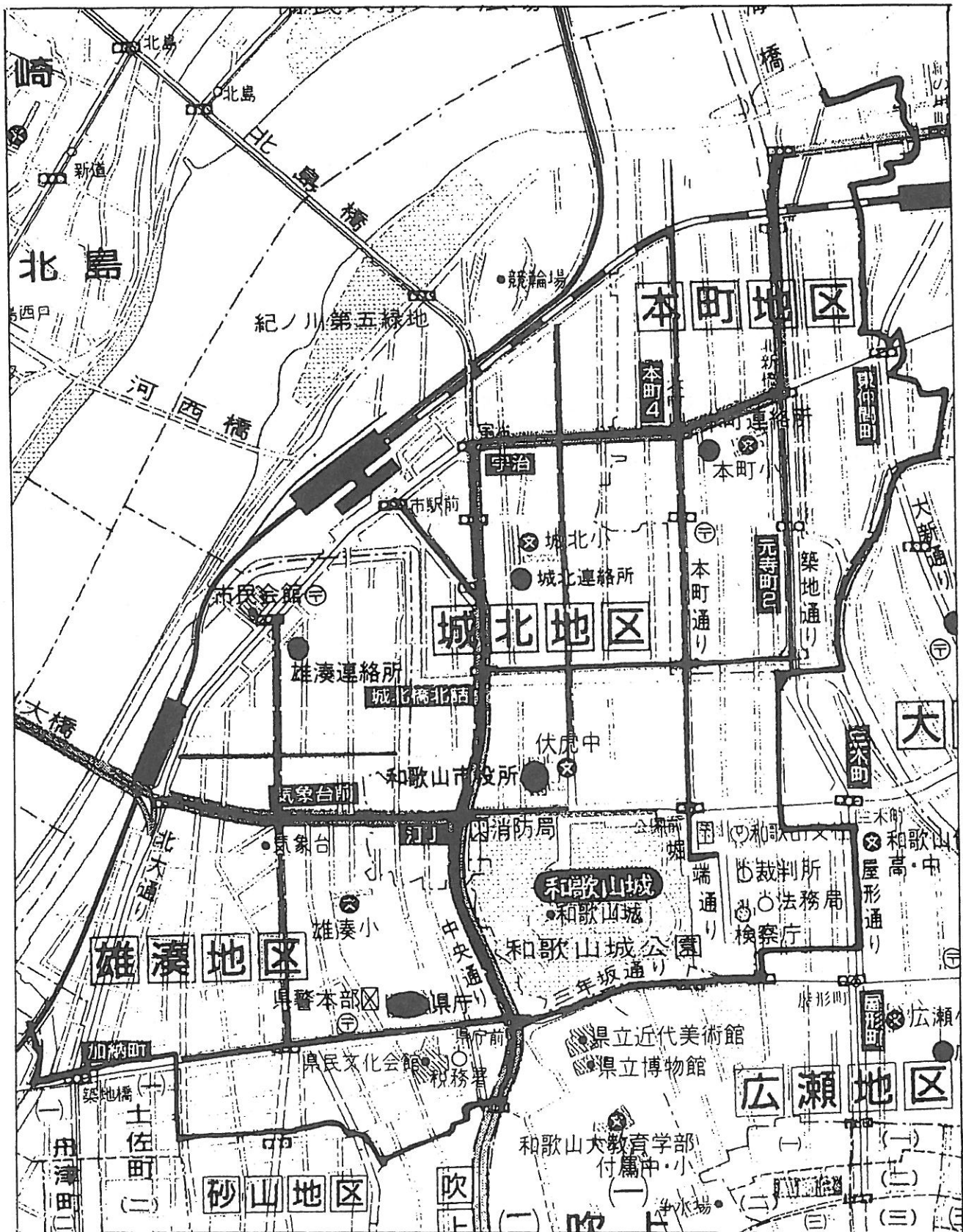
(2) 城北小学校区

和歌山市の西玄関口で、南海電鉄和歌山市駅、バスターミナル、競輪場などがあり、おもに商店街で、一部工場地帯もある。

(3) 雄湊小学校区

和歌山県庁の所在する地区で、官公署、商店、小工場が多く存在する地区である。

3. 校区略図



4. 教育目標

活気に満ちた伏虎中学校

～美しく、仲良く、静かで、活力ある学校～

◎ 基本方針

公教育の立場を自覚し、生徒、保護者および地域から信頼される学校づくりをする。

- 美しい環境を整え大切にし、いじめのない、自らが静かで、すべてに打ち込む生徒を育成する。
- 基本的な生活習慣を身につけさせ、自主活動を推進する。
- 国際理解を深め、親善・交流を充実する。

	教育目標	目標の具体化	実践事項
活 気 に 満 ち た 伏 虎 中 学 校	○美しく	・ 美しい環境づくり 環境整美に努力する	・ 全校一斉清掃により 全員で整美に努力する。
	○仲良く	・ 友人と共に助け合って 学ぶ仲間づくり	・ 学級経営（学習環境も含む）の改 善に努力する。 ・ 生徒理解に努力する。
	○静かで	・ 安心して学べる 静かで落ち着いた学校生活	・ 授業の規律を確保する。 ・ 学習目標を明確にする。
	○活力ある	・ 自分で考え自分で積極的に 学ぶ生徒の育成 ・ 新しい教育のより深い研究 ・ 実践をする。	・ 生徒会活動を活発化する。（学級係 の活動の活発化） ・ 授業研究を推進する。（新しい授業 形態の研究）

◎ 努 力 点

1. 行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。
2. 教材教具を工夫し、教科指導を充実する。
3. 生徒理解を基本にきめの細かい指導に努め、生徒指導の充実を図る。
4. 道德教育・特別活動の系統的学習を推進する。
5. 人権教育（同和教育）・特別支援教育（障害児教育）の充実を図る。
6. 生徒会活動の活性化を図る。
7. 学習環境の整備と充実に努める。
8. 保護者との連携を図る。

◎ 教育実践心得

教職員は、自らの使命を自覚し、常に生徒・保護者の願いに立って教育実践を豊かにし、自らの資質と力量の向上に努める。

1. 自己研修及び相互研修に努める。
2. 校務への自覚と協調を図り、連絡、相談、報告を密にする。
3. 創意・工夫をこらし、社会の変化に対応した教育実践に努める。

目指す生徒像

自分で考え、自分で実践し、自分で責任のとれる生徒

〔 自分をみがく生徒（正しく学ぶ）
最後までやりぬく生徒（明るく励む）
励まし合いのできる生徒（楽しく集う）

◎ 実践目標

1. あいさつをする。
2. 時間を大切にする。
3. 公共物を大切にする。

5. 授業時間

	1 年	2 年	3 年	3 年間計
国 語	140	105	105	350
社 会	105	105	85	295
数 学	140	105	105	350
理 科	105	105	105	315
音 楽	45	35	35	115
美 術	45	35	35	115
保 健 体 育	90	90	90	270
技 術 家 庭	70	70	35	175
外 国 語	105	105	105	315
道 徳	35	35	35	105
特 別 活 動	35	35	35	105
選択教科等	0	70	105	175
総 合	65	85	105	255
創 意	35	35	35	105
年 間 計	1015	1015	1015	3045

6. 週時間配当（平均）

1 時限（50分）

学 年	必 修 教 科									選 択		総 合	道 徳	学 活	計	創 意	総 計
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 体	技 家	英 語	国 語	数 学	理 科	技 術	家 庭			
1	4	3	4	3	1.3	1.3	2.6	2	3	0		1.8	1	1	28	1	29
2	3	3	3	3	1	1	2.6	2	3	2		2.4	1	1	28	1	29
3	3	2.4	3	3	1	1	2.6	1	3	3		3	1	1	28	1	29

7. 校 時 表

校 時	時 限	月	火	水	木	金	備 考
8:30	予 鈴	職員朝礼(8:25～)					○ 教科授業 学 学級活動 総 総合的な学習 創 行事 全集 学年集会等 特別活動 大掃除 生徒会等 欠時補充
8:35～8:45	読書タイム	朝の読書					
8:45～8:50	学 活						
8:55～9:45	1 限	○	○	○	○	○	
9:55～10:45	2 限	○	○	○	○	○	
10:55～11:45	3 限	○	○	○	○	○	
11:55～12:45	4 限	○	○	○	○	○	
12:45～13:25	昼 休						
13:25	予 鈴						
13:30～14:20	5 限	○	○	総	創	○	
14:30～15:20	6 限	○	○		学	○	
15:25～15:40	清 掃						
15:40～15:50	学 活						

8. 学級編成

〔5月1日現在〕

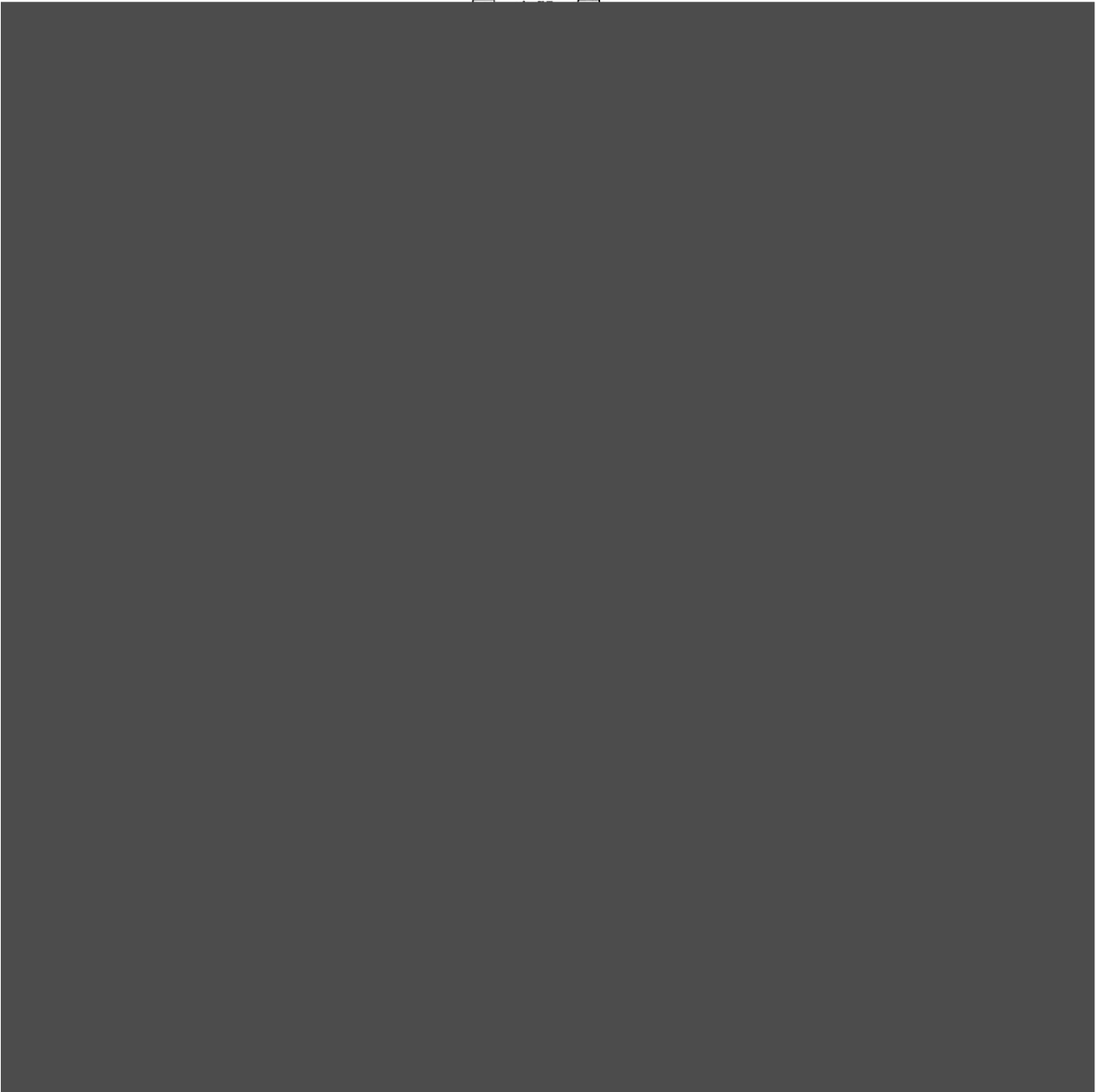
組	1年			担任	副担任	組	2年			担任	副担任	組	3年			担任	副担任
	男	女	計				男	女	計				男	女	計		
1	14	11	25			1	16	12	28			1	16	13	29		
2	13	13	26			2	18	11	29			2	15	14	29		
3	13	12	25			3	17	12	29			3	16	13	29		
特	0	1	1			特	1	0	0			特	0	0	0		
計	40	37	77			計	52	35	87			計	47	40	87		

全校生徒	男	女	計
	139	112	251

9. 卒業生徒数の推移

回	年 度	全校生徒数	卒業生徒数
1	昭和22	590名	73名
16	37	2,662	900
20	41	1,866	685
25	46	1,643	511
30	51	1,672	553
35	56	1,708	461
38	59	843	308
40	61	820	289
41	62	768	268
42	63	705	261
43	平成元	620	234
44	2	568	210
45	3	519	178
46	4	505	186
47	5	459	155
48	6	433	157
49	7	395	146
50	8	406	127
51	9	405	116
52	10	425	165
53	11	403	128
54	12	395	137
55	13	357	143
56	14	319	113
57	15	300	105
58	16	287	103
59	17	274	94
60	18	267	94
61	19	256	92
62	20	252	84
卒業生総数			25,351

10. 校舍略図



[illegible]

12. 年間行事計画

1 学 期											
4 月			5 月			6 月			7 月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	水	着任式	1	金		1	月	教育実習開始 学校開放月間	1	水	中体連壮行会 いじめなくそう
2	木		2	土		2	火	陸上競技大会	2	木	復習テスト1
3	金		3	日	憲法記念日	3	水	いじめなくそうデー	3	金	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土	
5	日		5	火	こどもの日	5	金		5	日	
6	月		6	水	振替休日	6	土		6	月	
7	火		7	木		7	日		7	火	
8	水	入学式	8	金		8	月		8	水	
9	木	始業式	9	土		9	火		9	木	
10	金	身体測定	10	日		10	水		10	金	
11	土		11	月		11	木		11	土	
12	日		12	火	進路説明会	12	金		12	日	
13	月		13	水		13	土		13	月	懇談会①
14	火	3年内科健診	14	木		14	日		14	火	懇談会②
15	水		15	金		15	月		15	水	懇談会③
16	木	歯科検診	16	土		16	火		16	木	懇談会④
17	金	2年内科健診	17	日		17	水		17	金	
18	土		18	月	家庭訪問①	18	木	中間テスト①	18	土	
19	日		19	火	家庭訪問②	19	金	中間テスト②	19	日	
20	月		20	水	家庭訪問③	20	土		20	月	海の日
21	火	全国学力テスト 1年内科健診	21	木	家庭訪問④	21	日		21	火	
22	水		22	金	家庭訪問⑤	22	月		22	水	
23	木	耳鼻科検診	23	土		23	火	校外学習	23	木	
24	金		24	日		24	水		24	金	
25	土		25	月		25	木	生徒総会	25	土	
26	日		26	火		26	金		26	日	
27	月	写生会	27	水		27	土		27	月	
28	火	育友会総会	28	木		28	日		28	火	
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水	
30	木	眼科検診	30	土		30	火		30	木	
			31	日					31	金	

1学 期					2学 期						
8月			9月			10月			11月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	土		1	火		1	木		1	日	
2	日		2	水	いじめなくそうデー	2	金		2	月	学校開放月間
3	月	登校日	3	木	復習テスト2	3	土		3	火	文化の日
4	火		4	金		4	日		4	水	いじめなくそうデー
5	水		5	土		5	月		5	木	
6	木		6	日		6	火		6	金	第1回実力テスト
7	金		7	月		7	水	いじめなくそうデー	7	土	
8	土		8	火		8	木		8	日	
9	日		9	水		9	金	終業式（1学期）	9	月	
10	月		10	木		10	土		10	火	
11	火		11	金		11	日		11	水	
12	水	夏季一斉休業	12	土		12	月	体育の日	12	木	
13	木	夏季一斉休業	13	日		13	火	始業式（2学期）	13	金	
14	金	夏季一斉休業	14	月	期末テスト①	14	水		14	土	
15	土		15	火	期末テスト②	15	木		15	日	
16	日		16	水	期末テスト③	16	金		16	月	
17	月		17	木		17	土		17	火	
18	火		18	金		18	日		18	水	
19	水		19	土		19	月		19	木	
20	木		20	日		20	火		20	金	学習発表会
21	金	登校日	21	月	敬老の日	21	水		21	土	
22	土		22	火	国民の休日	22	木		22	日	
23	日		23	水	秋分の日	23	金		23	月	勤労感謝の日
24	月		24	木	生徒会役員選挙	24	土		24	火	
25	火		25	金		25	日		25	水	
26	水		26	土		26	月		26	木	
27	木		27	日		27	火	3年 宿泊研修 2年職場体験学習	27	金	
28	金		28	月		28	水	宿研・職体学習 1年 校外学習	28	土	
29	土		29	火		29	木	3年 宿泊研修 2年職場体験学習	29	日	
30	日		30	水		30	金		30	月	中間テスト①
31	月					31	土				

※予定変更することがあります

2 学 期											
12 月			1 月			2 月			3 月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	火	中間テスト②	1	金	元旦	1	月	20年度入学説明会	1	月	
2	水	中間テスト③	2	土	冬季一斉休業	2	火		2	火	
3	木	いじめなくそうデー	3	日	冬季一斉休業	3	水	いじめなくそうデー	3	水	
4	金		4	月		4	木		4	木	冊子
5	土		5	火		5	金	第4回実力テスト	5	金	
6	日		6	水	いじめなくそうデー	6	土		6	土	
7	月		7	木		7	日		7	日	
8	火	第2回実力テスト	8	金	第3回実力テスト	8	月		8	月	
9	水		9	土		9	火		9	火	
10	木		10	日		10	水		10	水	
11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	球技大会
12	土		12	火		12	金		12	金	球技大会
13	日		13	水		13	土		13	土	
14	月		14	木		14	日		14	日	
15	火		15	金		15	月	3年個人懇談会①	15	月	
16	水		16	土		16	火	3年個人懇談会②	16	火	
17	木	懇談会①	17	日		17	水	3年個人懇談会③	17	水	
18	金	懇談会②	18	月		18	木	3年個人懇談会④	18	木	
19	土		19	火		19	金		19	金	
20	日		20	水		20	土		20	土	春分の日？
21	月	懇談会③	21	木		21	日		21	日	
22	火	懇談会④	22	金		22	月		22	月	
23	水	天皇誕生日	23	土		23	火	↓24 第5回実力テスト	23	火	
24	木		24	日		24	水	1、2年期末テスト 3年個人懇談会	24	水	終業式（2学期）
25	金		25	月		25	木	1、2年期末テスト 3年個人懇談会	25	木	
26	土		26	火		26	金	1、2年期末テスト 3年個人懇談会	26	金	
27	日		27	水	3年個人懇談会	27	土		27	土	
28	月		28	木	3年個人懇談会	28	日		28	日	
29	火	冬季一斉休業	29	金	3年個人懇談会				29	月	
30	水	冬季一斉休業	30	土					30	火	
31	木	冬季一斉休業	31	日					31	水	離任式

教科指導計画



考_て自分で

実践_し

責任を
果たします

目 次

国 語 科	15
社 会 科	17
数 学 科	19
理 科	21
音 楽 科	23
美 術 科	25
保 健 体 育 科	27
技 術 ・ 家 庭 科	29
英 語 科	33
選 択 教 科	35
特別支援学級（少人数学級）	37
" 教科指導の内容（生 活）	38
" " （国 語）	39
" " （社 会）	39
" " （数 学）	40
" " （理 科）	40
" " （英 語）	41

○ 指導の重点（ねらい）

国 語 科

一 年	(1) 自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。 (2) 必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。 (3) 様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	週 4時間
		年 140時間
二 年	(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。 (2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。 (3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。	週 3時間
		年 105時間
三 年	(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。 (2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。 (3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。	週 3時間
		年 105時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	野原はうたう にじの見える橋	春に 雨の日と青い鳥	わたしを束ねないで 握手
5	スピーチ ちょっと立ち止まって 言語Ⅰ 漢字Ⅰ	言語Ⅰ 漢字ⅠⅡ 「聞く生活」を考えよう	言語Ⅰ 相手を意識して伝えよう 漢字ⅠⅡ
6	市民憲章読書会参加 クジラたちの声 言語Ⅰ 漢字ⅡⅢ 麦わら帽子	市民憲章読書会参加 文化を伝えるチンパンジー 文法ⅠⅡ	市民憲章読書会参加 メディア社会を生きる 文法Ⅰ
7	文法Ⅰ さつき	人物紹介パンフレット作り	記事を書く 漢字Ⅲ

9	大人になれなかった弟たちに…	短歌を味わう	俳句の可能性
	競書会参加	競書会参加	競書会参加
	手紙を書く	ゼブラ	高瀬舟
10	蓬萊の玉の枝	盆土産	挨拶
	漢字ⅣⅤ	字のないはがき	故郷
11	今に生きる言葉	漢字ⅣⅤ 言語Ⅱ	古今和歌集、仮名序 君待つと 夏草
	未来をひらく微生物	枕草子	
	漢字Ⅵ	平家物語	学びて時にこれを習う
12	文法Ⅱ	徒然草	
	江戸からのメッセージ	文法Ⅲ 五重の塔はなぜ倒れないか	言語Ⅱ
1	書初会参加	漢詩の風景	生き物として生きる
	少年の日の思い出	書初会参加 漢字Ⅶ	漢字ⅣⅤ
2	文法Ⅲ		意見文を作る
	胸の底の人と言葉たち	モアイは語る	アラスカとの出会い
3	レポート作り	意見文を作る 走れメロス	温かいスープ 奈々子に
	坊っちゃん 「ごちそうさま。」と言わなくても	ふわふわ マドゥーの地で 古典の心に近づく 「春」の息吹	「はじめに…」について 二つの悲しみ 宇宙を見渡す目

○ 指導の重点（ねらい）

社 会 科

一・二年 (地理・歴史)	世界や日本のさまざまな地域、又身近な地域について、人々の生活、地域ごとの関連性、自然や社会的条件と人間との関係などの学習を通して、今日の自分たちの生活、地域、国がさまざまな地理的事情と深い関わりを持ち、影響されながら成りたっていることに気付かせる。(地理)	年 105時間 週 3時間
	わが国の歴史を、世界歴史を背景としながらの学習を通して、多くの先人たちの努力の成果として理解し、わが国の伝統や文化を尊重しつつ国際協調の世界観を養い、今日の社会の様々な問題について、歴史の発展をふまえて考えられる力を身につけさせる。(歴史)	年 105時間 週 3時間
三年 (公民)	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて、多面的、多角的に考察し、国民としての基礎的な教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。	年 85時間 週 2.4時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	地 理 1 編 世界と日本の地域構成 1 章 地球のすがた	歴 史 ③ 産業の発達と幕府政治の動き	公 民 1 章 現代社会とわたしたちの生活
5	2 章 世界のすがたとさまざまな地域	5 章 開国と近代日本の歩み ① 欧米の進出と日本の開国	2 章 人間の尊重と日本国憲法 ① 個人と社会生活
6	3 章 日本のすがたとさまざまな地域	② 明治維新	② 人権と日本国憲法 ③ 人権と共生社会
7	2 編 地域の規模に応じた調査 1 章 身近な地域の調査	③ 日清・日露戦争と近代産業	
8			
9	歴 史 1 章 歴史の流れ	地 理 2 章 都道府県の調査 (多面的な学習)	3 章 現代の民主政治と社会 ① 現代の民主政治

10	2章 古代までの日本 ① 文明のおこりと日本の成り立ち ② 古代国家の歩みと東アジア世界	3章 世界の国々の調査 (多面的な学習)	② 国の政治のしくみ ③ 地方の政治と自治
11	3章 中世の日本 ① 武士の台頭と鎌倉幕府	3編 世界から見た日本のすがた 1章 さまざまな面から見た日本	4章 わたしたちの暮らしと経済 ① わたしたちの生活と経済
12	② 東アジア世界のかかわりと社会の変動	2章 さまざまな視点から見た日本 歴 史	② 市場経済と金融 ③ 国民生活と福祉
1	4章 近世の日本 ① ヨーロッパ人との出会いと全国統一	6章 二度の世界大戦と日本 ① 第一次世界大戦とアジア・日本	5章 地球社会とわたしたち ① 国際問題と地球市民 ② 国際社会と世界平和
2	② 江戸幕府の成立と鎖国	② 世界恐慌と日本の中国侵略 ③ 第二次世界とアジア	総 合 国際理解(地球環境問題等)
3		7章 現代の日本と世界 ① 日本の民主化と国際社会への復帰 ② 国際社会と日本	

○ 指導の重点（ねらい）

数 学 科

一 年	○正の数・負の数の理解を深める。 ○文字の式・方程式を理解し、処理できるようにする。 ○比例・反比例など数量の関係を表現したり考察する基礎を培う。 ○図形に対する直感的な見方・考え方を深める。 ○資料の整理の仕方も大事にしながら、資料の傾向を読み取る活用力をつけさせる。	週	
			4時間
二 年	○文字を用いた式について、計算したり変形したりする能力を伸ばし、連立方程式について理解し、それを応用する力をつけさせる。 ○一次関数を理解させるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する力をつけさせる。 ○基本的な平面図形の性質の理解を深め、数学的な推論の意義と方法を身につけさせる。 ○確率の基本を理解させる。	週	
			3時間
三 年	○目的に応じて計算したり、式を変形したりする力をのばす。また、平方根を理解し、数の概念について理解を一層深める。 ○二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。 ○関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する力をつけさせる。 ○図形の相似や三平方の定理を理解し、論理的に考察する力をつけさせる。	週	
			3時間
		年	140時間
		年	105時間
		年	105時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	正の数・負の数 ○正の数・負の数 ○正の数・負の数の計算 ○数の集合と四則	式の計算 ○式の計算 ○文字式の利用	式の展開と因数分解 ○多項式の計算 ○因数分解 ○式の計算の利用
5		連立方程式 ○連立方程式 ○連立方程式の利用	
6	文字の式 ○文字を使った式		平方根 ○平方根 ○根号をふくむ式の計算
7	○文字式の計算 ○大小関係を表す式	一次関数 ○一次関数とグラフ ○一次関数と方程式	

9	- 方程式 ○方程式 ○方程式の利用 ○比と比例式	○一次関数の利用	二次方程式 ○二次方程式 ○二次方程式の利用
10	- 比例と反比例 ○関数関係 ○比例 ○反比例 ○比例、反比例の利用	図形の調べ方 ○平行と合同 ○証明	関数 $y=ax^2$ ○関数とグラフ ○関数$y=ax^2$の値の変化 ○関数$y=ax^2$の利用
11	- 平面図形 ○直線図形と対称 ○基本の作図 ○円とおうぎ形 ○図形の移	図形の性質と証明 ○三角形 ○四角形 ○円	図形と相似 ○図形と相似 ○平行線と線分の比
12	- 空間の形 ○立体と空間図形		
1	○立体の表面積と体積 ○立体の投影図 ○球の表面積と体積	確率 ○確率の意味 ○場合の数と確率	三平方の定理 ○三平方の定理 ○三平方の定理の利用
2			
3	資料の活用		

○ 指導の重点（ねらい）

理 科

一 年	自然の観察を通じて科学的自然観の基礎を養う 植物の学習による生物観の基礎 物体の物理的変化の学習による力学法則の基礎 物質の化学的変化の学習による原子論的物質観の基礎 固体地球現象の学習による地球観の基礎	週	
		年	3時間 105時間
二 年	科学的自然観の基礎を養う 物体の電氣的性質の学習による電磁気法則の基礎 動物の種類や生態の学習による生物観の基礎 大気現象の学習による地球観の基礎 物質の化学的変化の学習による原子論的物質観の基礎	週	
		年	3時間 105時間
三 年	科学的自然観を発展させる 生物の細胞を基本にした生殖、遺伝、進化の考察 地球の運動の学習による宇宙観の形成 生態現象の学習からの巨視的生物観による科学的生物観の発展 人類の歴史と現在の課題から、科学による将来の見通しを形成 エネルギー概念の学習による自然現象の統一的な見方への発展	週	
		年	3時間 105時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	身のまわりの生物を観察しよう	電流とその利用 電気で遊ぼう	生物の細胞と生殖 はじまりは1つの細胞だった
5	植物のくらしとなかま 植物はどんな生物だろう 1. なかまのふやすくみ 2. 栄養分をつくるしくみ 3. 水や養分を運ぶしくみ 4. 植物のなかま分け	1. 電気の正体 2. 電流の性質 3. 電流の利用	1. 細胞と生物の成長 2. 生物のふえ方
6			運動とエネルギー 物体の運動のようすを調べてみよう 1. 速さと運動の調べ方 2. 力の運動 3. 力学的エネルギー 4. いろいろなエネルギーとその移り変わり
7	身近で起こる不思議な現象 光による不思議な現象 体験してみよう	動物のくらしとなかま 動物とはどんな生物だろう 1. いろいろな動物 2. 感覚と運動のしくみ	化学変化とその利用 花火の打ち上げと化学変化 1. 化学エネルギー 2. 金属資源と酸素の化学変化

9	1. 光による不思議な現象 2. 音による不思議な現象 3. 力による不思議な現象	3. 生命を維持するはたらき	化学変化とその利用 (前ページのつづき)
10	- 身のまわりの物質 - どのようにすれば物質を区別できるかな	天気の変化 天気と日常生活 1. 大気中の水 2. 大気の動き 3. 大気の動きと天気の変化	自然と人間 環境とは何だろうか
11	1. いろいろな物質とその性質 2. いろいろな気体とその性質 3. 物質の状態の変化 4. 水溶液の性質		1. 生物どうしのつながり 2. 人間と環境
12			科学技術と人間 マイクロ水力発電 1. エネルギー資源
1	生きている地球 ハワイが語る地球の不思議 1. 大地は火をふく 2. 大地は語る 3. 大地がゆれる 4. 大地が変動する	化学変化と原子・分子 木炭はどこへ 1. 物質が分かれる変化 2. 物質の成り立ち 3. 物質が結びつく変化 4. 化学変化の規則性	(選択章) 科学技術とわたしたちの生活 自然と人間のかかわり
2			(総 合・環 境)
3			

○ 指導の重点（ねらい）

音 楽 科

一 年	- 音楽の基礎を理解し、表現する喜びを味わわせると共に、表現する能力を育てる。 - 多様な音楽に関心をもたせ、鑑賞する能力を育てる。	年 45時間 週間 1.3 時
二 年	表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。	年 35時間 週 1時間
三 年	音楽に対する理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。	年 35時間 週 1時間

学年 月週		一 年	二 年	三 年
4		リズムの基礎	リズムの応用 発声の応用	曲づくりの工夫 独唱
5		発声の基礎 「校歌」 斉唱曲		
6		鑑賞「春」 アルトリコーダーの基礎	混声三部合唱 鑑賞「小フーガ」	混声三部合唱
7		鑑賞「魔王」	鑑賞「交響曲第5番」 リコーダー重奏	リコーダーでの曲想づくり

9	リズムの基礎 発声の基礎	リズムと発声	鑑賞「オーケストラに親しむ」
10	混声二部合唱	混声三部合唱	日本や世界の歌に親しむ
11	鑑賞「日本の楽器の響き」	鑑賞「オペラに親しむ」	鑑賞 「日本の伝統音楽に親しむ」
12	アルトリコーダー低音練習	箏に親しむ	卒業式歌の合唱
1	卒業式歌の合唱	卒業式歌の合唱	
2	アルトリコーダー低音練習 鑑賞「モルダラ」		
3	鑑賞「世界の民族音楽」	鑑賞「世界の民族音楽」	

美術科

○ 指導の重点（ねらい）

一 年	・楽しく活動にとり組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ・鑑賞学習で美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。	年 45時間 週間 1.3 時
二 年	・対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、創造的に表現する能力を伸ばす。 ・鑑賞学習で日本の文化・世界の文化からよさや、美しさを味わうとともに美術とのかかわりを考えさせる。	年 35時間 週 1時間
三 年	・感性や想像力を一層高め、独創的総合的な見方や考え方を培い、創造的に表現する能力を伸ばす。 ・鑑賞学習で日本の文化・世界の文化からよさや、美しさを味わうとともに美術とのかかわりを考えさせる。	年 35時間 週 1時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	学習の基本的な構え 素描の基礎練習 ○絵画 — 写生 （感じたままに）	○絵画 — 写生 （空間との対話）	○絵画 — 写生 （季節を感じて）
5	鑑賞 。スケッチ、デッサン練習 画面の構図 （感じたままに表現）	。鑑賞 。スケッチ、デッサン練習 画面の構図 遠近の表し方 （空間の表し方）	。鑑賞 。スケッチ、デッサン練習 画面の構図 （季節感の表現）
6	水彩の基礎		
7			
8	○デザイン レタリング	○デザイン 立体感のある構成	○工芸（木彫） 題材（メッセージとしての美術）

9	・ ・ ・	鑑賞 。スケッチ、デッサン練習	想像画	鑑賞 。スケッチ、デッサン練習	ポスター	鑑賞 。スケッチ、デッサン練習
10	・ ・ ・					
11	・ ・ ・					
12	・ ・					
1	・ ・	。工芸（紙粘土）		○絵画 — 模写		
2	・ ・	○絵画 — 鉛筆デッサン		鑑賞 。スケッチ、デッサン練習		○絵画 — 点描
3	・ ・	。鑑賞				。鑑賞

○ 指導の重点（ねらい）

保 健 体 育 科

一 年	（体育） ○生活を健康で明るくするための運動実践の習慣化と各種運動技能の習慣。	（保健） ○心身の機能の発達と健康な生活についての理解、合理的に健康を保持増進する態度の育成。	年 90時間 週間 2.6 時
二 年	○強健な身体・強い意志をの育成と体力の向上。 ○各種の運動の経験を通して、公正、協力、責任などの態度の育成。	○健康と環境とのかかわりについての理解、健康に適した環境の維持や改善を図ることのできる能力と態度の育成。	年 90時間 週間 2.6 時
三 年	○健康、安全に留意して運動する態度の育成。	○傷害の防止と疾病の予防について理解、応急処置の基礎的技能の習得、これらを実践する能力と態度の育成。	年 90時間 週間 2.6 時

学年 月週		一 年		二 年		三 年	
		男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
4		集団行動 スポーツテスト		集団行動 スポーツテスト		集団行動 スポーツテスト	
5		球技	陸上	球技	陸上	球技	陸上
6		保健	保健	保健	保健	保健	保健
7		陸上	球技	陸上	球技	陸上	球技
8							

9	器械運動		器械運動		器械運動	
10	保 健		保 健		保 健	
11	バスケット	ソフトボール	バスケット	ソフトボール	バスケット	ソフトボール
12	持久走		持久走		持久走	
1	サッカー	バスケット	サッカー	バスケット	サッカー	バスケット
2						
3	サッカー	バスケット	サッカー	バスケット	サッカー	バスケット
	保 健		保 健		保 健	
	球 技		球 技		球 技	
	軽スポーツ		軽スポーツ		軽スポーツ	

○ 指導の重点（ねらい）

技術家庭科（技術分野）

一 年	情報とコンピュータ ①生活や産業の中で情報手段が果たしている役割を知らせる。 ②コンピュータの基本的な構成と機能及び操作を知らせる。 ③コンピュータを利用できるようにする。 ④情報通信ネットワーク	週 1 時間 年 35時間
一 年	技術とものづくり ①生活や産業の中での技術の役割を知る。 ②製作品の設計ができるようにする。 ③工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術を知らせる。 ④機器の仕組みを知り、保守ができるようになる。	週 1時間 年 35時間
三 年	技術とものづくり ①エネルギー変換のしくみを調べよう。 ②エネルギー変換を利用したものを製作しよう。 ③これからの生活とエネルギー変換について。	週間 0.5 時 年 17.5時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	情報とわたしたちの生活	技術とわたしたちの生活	技術とものづくり エネルギーを変換して利用しよう
5			(1)エネルギー変換のしくみを調べよう 。自然界のエネルギーを利用するには 。電気エネルギーを光や熱に変換するには 。電気エネルギーを動力に変わるには
6	コンピュータのしくみと基本操作 導入 ①コンピュータを構成するものを調べよう ②コンピュータを起動しマウスを使ってみよう ③キーボードを使ってみよう ④文書を作成し、保存してみよう	製品の設計 導入 ①つくりたい製品をきめよう ②じょうぶで、使いやすい製品を考えよう ③製品に適した材料を選ぼう ④接合や仕上げの方法を調べよう ⑤製品の構想をまとめ、図に表そう 製図	(2)エネルギー変換の利用と考察設計 。水力や風力などを利用するには 。電池を利用するには 。交流電源を利用するには 。器械のしくみと歩行ロボット
7	コンピュータの利用 導入 ①ソフトウェアについて調べてみよう ②文書を作ってみよう		

9	③図形をかいてみよう		
10	④表計算をしてみよう	製品の製作 導入 ①製作の準備をしよう	
11	⑤データベースを利用してみよう	②図面どおりにえがこう ③材料を切断しよう ④部品を加工しよう	
12	⑥情報を活用するための手順を整理してみよう	⑤組み立てよう ⑥製品を仕上げよう	
1	情報通信ネットワーク 導入 ①インターネットの情報をみてみよう ②インターネットで情報を集めよう	機器のしくみと保守点検 導入 ①電気を使う機器のしくみを調べよう ②動力伝達のしくみを調べよう ③機器に使われている部品を調べよう ④機器の保守点検のしかたを調べよう	(3)これからの生活とエネルギー変換について 。人を大切にする技術を調べよう 。環境を大切にする技術を調べよう
2	③電子メールで情報を交換しよう ④情報伝達の方法を調べてみよう		
3	⑤情報伝達の安全性とマナーを考えよう	技術とものづくりの未来	

○ 指導の重点（ねらい）

技術家庭科（家庭分野）

一 年	〔生活の自立と衣食住〕 食……食物の基礎・基本を身につけ、簡単な日常食の調理を通して、自分の食生活に関心をもたせ、楽しく食べるための工夫を考えさせる。	年 35時間 週 1時間
二 年	〔家族と家庭生活〕 消費生活……消費者としての自覚をもたせ、環境に配慮した消費生活の工夫を考えさせる。 〔生活の自立と衣食住〕 住……よりよい住まい方の工夫を考えさせる。 衣……衣生活に関心をもたせ、簡単な補修ができるようにする。	年 35時間 週 1時間
三 年	〔家庭と家庭生活〕 自分の成長をふり返らせ、幼児の発達や家族の役割、地域の人々とのかかわりなどを考えさせる。	年間 17.5 時 週間 0.5 時

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	「食生活を自分の手で」 1. 健康と食生活	「自分らしく清潔に着る」 1. 日常着の活用 2. 日常着の手入れ	「わたしと家族・家庭と地域」 1. わたしと家庭生活 (1) 家庭のはたらきを考えよう (2) 自分と家族の関係を考えよう
5	(1) 栄養素のはたらき (2) いろいろな食品の栄養素		
6	(3) 中学生に必要な栄養素		2. 家庭生活と地域
7	(4) 食事の計画と実習	「快適に住まう」 1. 住まいのはたらき	「子どもの成長」 (1) 幼児の生活と遊び

9	2. 食品の選択と調理	2. 家族と共に住もう	(2) 幼児の成長
10	(1) 食品の選び方	3. 健康で快適に住もう	
	(2) 食品の表示		
	(3) 食品の保存		
11	(4) 調理の計画と実習	4. 自然と共に住もう	(3) 子どもと家族や周囲の人々
12			
1	「楽しく豊かに食べる」	「わたしたちの消費生活と環境」	
2	1. 食生活の課題	1. 生活に必要なもの	
		2. 商品の選択と購入	
3	2. 地域の食材とその調理	3. 消費生活と環境	
	3. いろいろな人と楽しむ会食		

○ 指導の重点（ねらい）

英 語 科

一 年	身近で簡単なことを英語で聞き、話し、読み、書くことができるようにするとともに、すすんでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	年 105時間 週 3時間
二 年	聞くことや、話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。	年 105時間 週 3時間
三 年	英語を使ったコミュニケーション能力を高めるとともに英語の学習活動を通じて、言語や文化に対する理解を深める。	年 105時間 週 3時間

学年 月週	一 年	二 年	三 年
4	Hello, English!	Warm-Up Unit 1 “Baseball Friends” L.P. 1	Warm-up Unit 1 “Let's Learn Braille” L.P. 1
5	Unit 1 「ようこそグリーン先生」	W.P. 1 Unit 2 “Emi Goes Abroad” L.P. 2 S.P. 1	M.P. 1 Unit 2 “The Shamisen Concert” L.P. 2
6	Unit 2「学校へ」 W.B. 1 Unit 3 「グリーン先生の初授業」 L.P. 1	Unit 3 “E - pal in Asia” L.P. 3 W.P. 2 M.P. 1 L.R. 1	M.P. 2 Unit 3 “Our Sisters in Nepal” L.P. 3 S.P. 1 M.P. 3 L.R. 1
7	Unit 4「日本大好き」 W.P. 1	L.C. 1	“A Mother's Lullaby”
8			

9	S.P. 1 Unit 5 「ピクニックに行こう」 W.B. 2 Unit 6 「グリーン家の人々」 L.P. 2 S.P. 2 Unit 7 「カナダの学校」	M.P. 2 Unit 4 “Homestay in the United States” L.P. 4 S.P. 2 Unit 5 “A Park or a Parking Area?” L.P. 5 S.P. 3 Unit 6 “The Story of Silent Night” L.P. 6 S.P. 4 M.P. 3 L.R.2 “Try to Be the Only One” L.C.2 E.P.3 Unit 7 “My Favorite Movie” L.P. 7 S.P. 5 M.P. 4 L.R. 3 “Can Anyone Hear Me?” L.C. 3	L.C. 1 S.P. 2 Unit 4 “An American Rakugo-ka” L.P. 4 S.P. 3 Unit 5 “Cell Phone - For or Against?” L.P. 5 W.P. 1 Unit 6 “20th Century Greats” L.P. 6 S.P. 4 S.P. 5 R.P. 2 W.P. 4
10			
11	W.P. 1 Unit 8 「初めてのカナダ旅行」		
12	L.P. 3 Unit 9 「クリスマスがやってきた」		
1	M.P. 2 S.P. 3 Unit 10 「ナイアガラの滝」 W.B. 3 L.P. 4		
2	S.P. 4 Unit 11 「それぞれのお正月」 L.P. 5		
3	W.P. 2 L.R. “The Hungry Lion”		

S.P. ... Speaking Plus W.P. ... Writing Plus

L.P. ... Listening Plus L.C. ... Let's Chat

M.P. ... Multi Plus R.P. ... Reading Plus

L.R. ... Let's Read W.B. ... Word Box

選択教科

2 年

選択国語

指導の重点（ねらい）

- 自分のものの見方や考え方を深めるため、読書に親しむ態度を育てる。
- 目的や意図に応じて文章を読み、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

学習内容

- ・ （文章表現活動） 詩や小説文、説明文を読む。
- ・ （韻文表現活動） 短歌や古文を読む。

2 年

選択理科

指導の重点（ねらい）

- 課題に対して、自分で予想をたてたり、理由を考え、実験する態度を身につける。

学習内容

- ・ 電流の性質をオームの法則を知る。
- ・ 分子模型をつくって原子について知る。
- ・ 化学変化の法則を知る。

3 年

選 択 数 学

指導の重点（ねらい）

- 基礎学力（1,2年の復習）の定着

学習内容

- ・ 1 年時 （ 関数 図形 ）の復習と発展
- ・ 2 年時 （ 一次関数 図形 確率 ）の復習と発展

3 年

選 択 技 術

指導の重点（ねらい）

- 電気機械の安全な利用についての知識を深め、電気エネルギーを利用するものを製作する。

学習内容

- ・ テーブルタップの製作
- ・ けい光灯スタンド等の製作

3 年

選 択 家 庭

指導の重点（ねらい）

- 幼児向きのおもちゃ作りやおやつ作りを通して、幼児への理解を深める。

学習内容

- ・ おもちゃ作り
- ・ おやつ作り

特別支援学級（少人数学級）

教科別時間数

	知的障害	
	1年	2年
国語	4	4
社会	3	3
数学	3	3
理科	2	2
音楽	1、3	1
美術	1、3	1
体育	2、6	2、6
技家	2	2
英語	3	3
生活	2	3
総合	1、8	1、4
道徳	1	1
特活	1	1
創意	1	1
合計	29	29

時 間 割

	月		火		水		木		金	
	一年	二年	一年	二年	一年	二年	一年	二年	一年	二年
1	音	体	数		体	生	生		生	技
2	理		国		社		国		音美	家
3	数		理		国		美	体	英	
4	道徳		英		英		社		体・音	
5	社		技・体		総合		創意		国	
6	体	美	家	生			学活		数	

※ 上記の「総」は交流授業になることもある。
（音楽、美術、体育、技術家庭を交流授業とする）

知的障害児学級の指導の重点（ねらい）

【生活単元学習】

◎豊かな生活をはぐくみ、調和のとれた人間形成のために。 ・基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・「体力づくり」や「栽培活動」を通して、健康の増進・身体安全の習慣および持続力を育てる。 ・校外学習や栽培活動を通して、人物や人・動植物をいたわる心を育て、実生活に応用できる生活力を身につけさせる。 ・交流・共同教育により、人と仲良く力を合わせる協調性・社会性を身につけさせる。		1年 週 2時間
		2年 週 3時間
		1年 年 70時間
		2年 年 105時間
月	め あ て	
4	・調理実習 ———年間を通して———	
5	○基本的生活習慣の指導 ・挨拶、マナー	
6	・身辺整理 ・家庭学習	
7	・校外学習 ○掲示板の飾りつけ ○金魚の世話	
8	○基礎体力づくり	
9	・ボールけり ・輪なげ ・なわとび	
10	・社会体験学習	
11	○情緒教育活動	
12	・調理実習	
1	○栽培活動	
2	・調理実習	
3	・校外学習	

指導の重点（ねらい）

【国 語】

・話や文章の内容を正確に理解する能力を身につけさせる。 ・考えたことや感じたことを素直に的確な文章で書き表す能力を身につけさせる。 ・友達や先生の話をよく聞き、自分の考えや意見を正しい言葉遣いで表すことができるようにさせる。	週 4時間
	年 140時間

月	め あ て
4	— 年間を通して —
5	・語句の意味、用法 ・漢字の学習
6	・市民憲章への参加 ・聞く、話す ・作文と読書
7	・表現 ・文章の読み取り
8	
9	・競書会への参加
10	
11	
12	
1	・書初競書会への参加
2	
3	

【社 会】

・地図の見方・描き方を身につける。 ・社会の一員としての自分の存在に気付かせる。 ・自分の生活と地域との関係を学ばせる。	週 3時間
	年 105時間

月	め あ て	
4	地理 ・世界のすがた	歴史 ・歴史の流れ
5	・世界の国々	
6	・日本のすがた ・都道府県について	・世界とその諸地域 - 古代までの日本
7		・中世の日本
8		
9	・和歌山県について	
10		・近代の日本
11	・和歌山県をとりま く地域について	・開国と近代日本の歩み - 二度の世界大戦と日本
12		
1	・身近な地域につい て	・現代の日本と世界
2	一年間を通して—	
3	・日々のニュース (新聞やテレビから)	

指導の重点（ねらい）

【数 学】

【理 科】

子どもの発達段階に合わせて、個別指導を行う。		週	
		3時間	
		年	
		105時間	
月	め あ て		
4	・百ます計算	・正負の計算	
5		・文字を使った式の計算	
6		・整数の 四則計算	
7			・方程式
8			
9	・図形の基礎		
10		・図形の基礎 ・グラフの基礎 (比例、反比例)	
11			個々の生徒に応じて教科書を用いて学習をすすめる。
12			
1	・角度		
2			
3			
—— 年間を通して —— 整数の四則計算の反復練習			

・基本的な科学の知識を理解し、自然の事物・現象に興味・関心を向ける態度、探求する態度の基礎を養う。		週
		2時間
・実験などをとおして物事を科学的に解明していく態度の基礎を養う。		年
		70時間
月	めあて	
4	・身のまわりの生物 の観察	
5		
6		
7		
8	・植物のくらしとな かま	
9		
10		
11		
12	・動物のくらしとなかま	
1		
2		
3		
4	・光音力	
5		
6		
7		
8	・身のまわりの物質	
9		
10		
11		
12	・生きている地球	
1		
2		
3		
4	・地球と宇宙	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
1		
2		
3		

指導の重点（ねらい）

【英 語】

	・最も基本的な発音、語句、表現などを身につけさせる。 ・簡単なゲームをとおして英語表現を身につけコミュニケーションをはかる。 ・ビデオ教材等を通して、英語に親しみ、外国文化にも興味をもたせる。	週
		3時間
		年 105時間
月	め あ て	
4	— 年間を通して —	
5	・あいさつや簡単な表現が英語で言えるようにする。	
6	・簡単な質問に対して、英語で答えられるようにする。	
7	・クリスマスやハロウィーン等の行事を通して外国文化に親しむ。	
8	・アルファベットの習得	個々の生徒に応じて教科書を用いて学習をすすめる。
9	・身のまわりのものを英語で言えるようにする。	
10		
11	・自分のことを英語で表現する。	
12	・be動詞・一般動詞を使って、文を組み立てる。	
1		
2	・疑問詞などを用いて、質問できるようにする。	
3		

各 部 ・ 委 員 会

美しく

仲よく

静かな

伏虎中学校



目 次

1. 職員会議・職員研修	43
2. 現職教育表	44
3. 学習評価	45
4. 道徳教育	47
5. 特別活動	51
6. 総合的な学習	53
7. 人権教育(同和)	60
8. 健康安全・性教育	62
9. 進路指導	65
10. 教育相談・生徒指導	66
11. 環境整備	68
12. 生徒会指導	69
13. 視聴覚教育	72
14. 図書館教育	73
15. 情報教育	74
16. 国際親善	75
17. 特別支援教育	76
18. 部活動	77
19. 防 災	79
災害時の編成	83
防災避難誘導経路図	84
暴風雨・大雨警報時について	85

1. 職員会議・職員研修

1. 方針

学校教育推進のための諸計画の立案、運営方法等の研究と学校教育の各領域の研修及び教職員としての教養を深めるための研修を通して、本教育目標の達成をはかる。

2. 実施計画

部 門	実 施 予 定	内 容
㊦ 教 科 会	必要に応じて毎月1回とする	・教育課程の研究 ・学習内容の系統的研究 教科の縦の連絡研究、進度、月別指導の打合せ ・学習指導技術の研究 研究授業 教材の活用、工夫、資料の作成 ・評価方法の研究
㊧ 学 年 会	毎月1回を原則とする	・学年の事務、行事の連絡と運営の打合せ ・教科相互の横の話し合い ・道徳教育、人権教育、総合的な学習、創意、その他学校教育計画の推進 ・教育相談・生徒指導部との連携
㊨ 職 員 会 議 現 職 教 育 運営委員会	毎月1回を原則とする	・学校教育計画及び学校運営上の重要事項の審議決定 ・現職教育計画により実施

2. 現 職 教 育

○ 現職教育目標

本校の特色を生かし、教職員相互の共通理解を深める研修に取り組む。

○ 年 間 計 画

	取 り 組 み
一 学 期	・生徒指導について ・生徒の健康と身体状況について ・各部会の今年度の方針について ・特別支援学級生徒及び通常学級における支援を要する生徒について ・通知票、評価等の研修 ・校内夏季研修会
二 学 期	・人権教育の研修 ・各部会 本年度の反省 ・本年度 伏虎中学校の反省とまとめ ・リラクゼーションの研修 ・次年度の計画立案

3. 学 習 評 価

評価は中学校学習指導要領に示す目標に照らし、絶対評価を行う。
学習指導要録に記する評価は次の通りである。

〔各教科の学習の記録〕

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入する。その表示は次のとおりである。

「十分満足出来ると判断されるもの」：A

「おおむね満足できると判断されるもの」：B

「努力を要すると判断されるもの」：C

II 評定

各教科別に学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し5、4、3、2、1により記入する。その表示は次のとおりである。

「十分満足出来ると判断されるもののうち、特に程度の高いもの」：5

「十分満足出来ると判断されるもの」：4

「おおむね満足できると判断されるもの」：3

「努力を要すると判断されるもの」：2

「一層努力を要すると判断されるもの」：1

〔選択教科の学習の記録〕

I 観点別学習状況

選択教科の観点は2観点で評価し、A、B、Cの記号により記入する。その表示は次のとおりである。

「十分満足出来ると判断されるもの」：A

「おおむね満足できると判断されるもの」：B

「努力を要すると判断されるもの」：C

II 評定

選択教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、A、B、Cにより記入する。その表示は次のとおりである。

「十分満足出来ると判断されるもの」：A

「おおむね満足できると判断されるもの」：B

「努力を要すると判断されるもの」：C

〔特別活動の記録〕

特別活動における生徒の活動について、各内容ごとにその趣旨に照らして十分満足出来る状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

〔総合的な学習の記録〕

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す総合的な学習の目標に照らして、学習の観点は①学習活動への関心・意欲・態度②総合的な思考・判断③学習活動に関わる技能・表現④知識を総合し応用する能力の4つにより文章表現により評価する。

必修各教科評価観点

教科	観 点
国 語	国語への関心・意欲・態度
	話す・聞く能力
	書く能力
	読む能力
	言語についての知識・理解・技能
社 会	社会事象への関心・意欲・態度
	社会的な思考・判断
	資料活用 of 技能・表現
	社会的事象についての知識・理解
数 学	数学への関心・意欲・態度
	数学的な見方や考え方
	数学的な表現・処理
	数量、図形などについての知識・理解
理 科	自然現象への関心・意欲・態度
	科学的な思考
	観察・実験の技能・表現
	自然現象についての知識・理解
音 楽	音楽への関心・意欲・態度
	音楽的な感受や表現の工夫
	表現の技能
	鑑賞の能力
美 術	美術への関心・意欲・態度
	発想や構想の能力
	創造的な技能
	鑑賞の能力
保 体	運動や健康・安全への関心・意欲・態度
	運動や健康・安全についての思考・判断
	運動の技能
	運動や健康・安全についての知識・理解
技 家	生活や技術への関心・意欲・態度
	生活を工夫し創造する能力
	生活の技能
	生活や技術についての知識・理解
英 語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
	表現の能力
	理解の能力
	言語や文化についての知識・理解

選択各教科評価観点

教科	観 点
国 語	国語への関心・意欲・態度
	表現技能
数 学	数学への関心・意欲・態度
	数学的な見方考え方
理 科	自然現象への関心・意欲・態度
	観察・実験の技能・表現
技 家	生活や技術への関心・意欲・態度
	生活の技能

総合的な学習評価観点

観 点
学習活動への関心・意欲・態度
総合的な思考・判断
学習活動に関わる技能・表現
知識を総合し応用する能力

4. 道徳教育

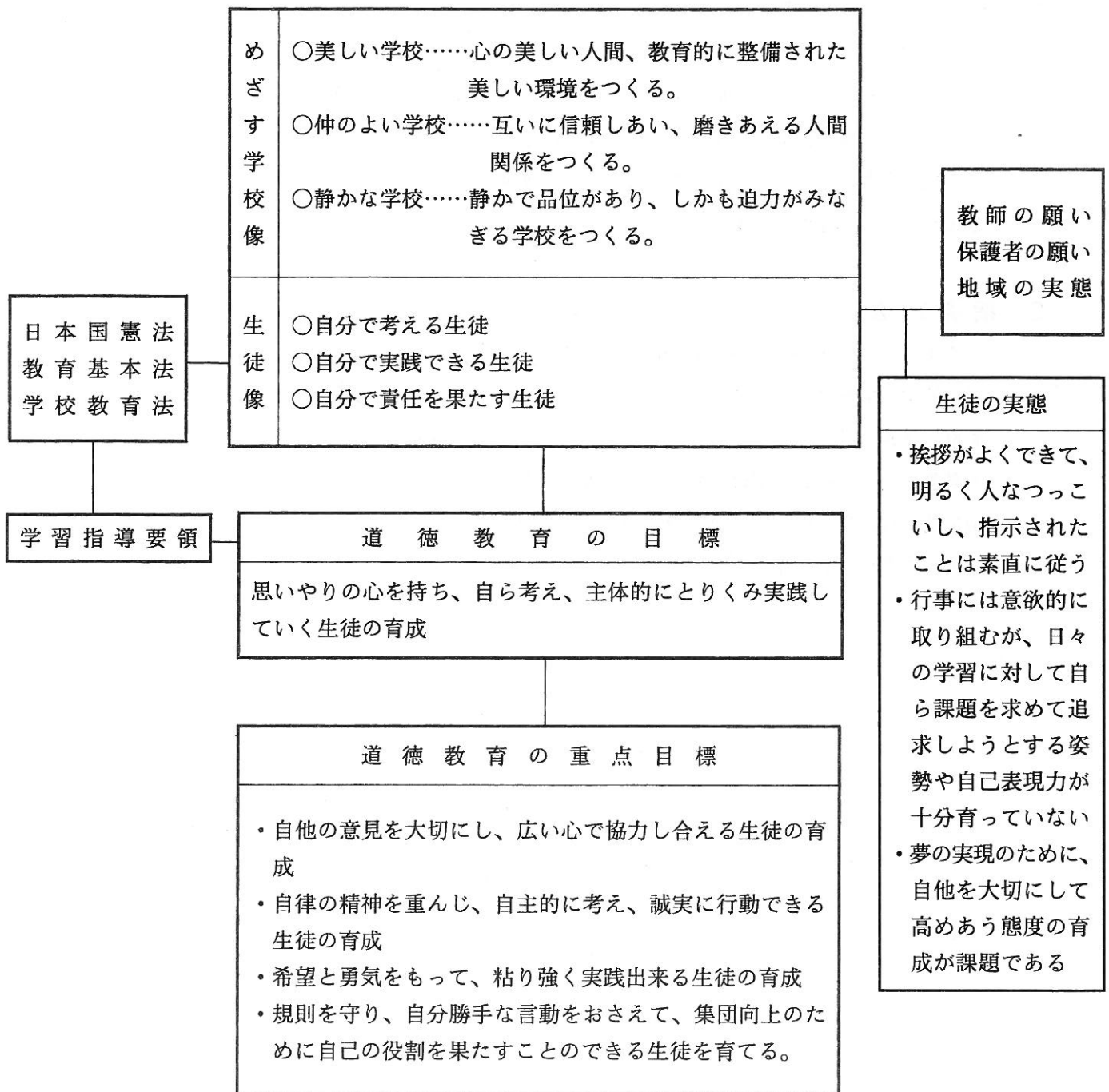
1. 目 標

- (1) 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を体得させる。
- (2) 伝統的な文化を継承し、発展させ、さらに個性豊かな文化の創造に努めさせる。
- (3) 民主的な社会及び国家の形成発展に努める人間を育成する。
- (3) 平和的な国際社会の実現に貢献できる人間を育成する。
- (4) 主体性のある人間を育成する。

2. 指導方法

- (1) 日常生活の行動を通じて道徳的心情を育てる。
- (2) 具体的な人間関係の中で道徳的自覚を高める。
- (3) 家庭、学校、社会集団の中の一員としての望ましい生活態度を育てる。
- (4) 人類愛の精神を培い、国際社会を正しく理解させる。
- (5) 道徳的態度、習慣の形成を全教育活動を通じて行う。
- (6) 道徳の時間において指導項目を深める。

道徳教育の全体計画



月	1 年		2 年		3 年	
	主 題	内容項目	主 題	内容項目	主 題	内容項目
4	望ましい生活習慣、心身の健康 自然の愛護、豊かな心 国際理解と平和	1-(1) 3-(1) 4-(10)	人間愛と思いやり 真実の追求、理想の実現 国際理解と平和	2-(2) 1-(4) 4-(10)	自然の愛護、豊かな心、畏敬の念 集団生活の向上 国際理解と平和	3-(1) 4-(1) 4-(10)
5	異性理解、人格の尊重 正義、公正公平 自主自律	2-(4) 4-(4) 1-(3)	望ましい生活習慣、心身の健康 異性理解、人格の尊重 個性や立場の尊重	1-(1) 2-(4) 2-(5)	個性や立場の尊重 異性理解、人格の尊重 郷土愛	2-(5) 2-(4) 4-(8)
6	友情、信頼 自己の向上、個性の伸長 生命の尊重 礼儀、適切な言動	2-(3) 1-(5) 3-(2) 2-(1)	家族愛 自己の向上、個性の伸長 自主自律 自然の愛護、豊かな心、畏敬の念	4-(6) 1-(5) 1-(3) 3-(1)	自己の向上、個性の伸長 自主自律 望ましい生活習慣、心身の健康 生命の尊重	1-(5) 1-(3) 1-(1) 3-(2)
7	人間愛と思いやり 勤労、社会への奉仕	2-(2) 4-(5)	郷土愛 生命の尊重	4-(8) 3-(2)	希望、勇気、強い意志 公德心、社会連帯	1-(2) 4-(3)
9	個性や立場の尊重 集団生活の向上 望ましい生活習慣、心身の健康 生命の尊重	2-(5) 4-(1) 1-(1) 3-(2)	礼儀、適切な行動 生命の尊重 社会の秩序と規律 国際理解と平和	2-(1) 3-(2) 4-(2) 4-(10)	伝統の継承と文化の創造 個性や立場の尊重 愛校心、校風の樹立 国際理解と平和	4-(9) 2-(5) 4-(7) 4-(10)
10	愛校心、校風の樹立 社会の秩序と起立 人間愛と思いやり 伝統の継承と文化の創造	4-(7) 4-(2) 2-(2) 4-(9)	勤労、社会への奉仕 集団生活の向上 正義、公正公平 人間の強さと気高さ	4-(5) 4-(1) 4-(4) 3-(3)	友情、信頼 正義、公平公正 自主自律 勤労、社会への奉仕	3-(3) 4-(4) 1-(3) 4-(5)

1 1	公徳心、社会連帯 希望、勇気、強い 意志 家族愛 正義、公正公平	4-(3) 1-(2) 4-(6) 4-(4)	公徳心、社会連帯 希望、勇気、強い 意志 人間愛と思ひやり 自然の愛護、豊かな心	4-(3) 1-(2) 2-(2) 3-(1)	社会の秩序と規律 人間の強さと気高 さ 生命の尊重 自然の愛護、豊かな心	4-(2) 3-(3) 3-(2) 3-(1)
1 2	自主自律 勤労、社会への奉 仕	1-(3) 4-(5)	勤労、社会への奉 仕 友情、信頼	4-(5) 2-(3)	心理の追求、理想 の実現 人間愛と思ひやり	4-(4) 2-(2)
1	自然の愛護、豊かな心 人間愛、感謝 生命の尊重	3-(1) 2-(6) 3-(2)	国際理解と平和 人間愛、感謝 自己の向上、個性 の伸長	4-(10) 2-(6) 1-(5)	正義、公正公平 礼儀、適切な言動 勤労、社会への奉 仕	4-(4) 2-(1) 4-(5)
2	真実の追究、理想 の実現 郷土愛 国際理解と平和 自主自律	1-(4) 4-(8) 4-(10) 1-(3)	愛校心、校風の樹 立 個性や立場の尊重 生命の尊重 伝統の継承と文化 の創造	4-(7) 2-(5) 3-(2) 4-(9)	国際理解と平和 人間の強さと気高 さ 生命の尊重 自主自律	4-(10) 3-(3) 3-(2) 1-(3)
3	人間の強さと気高 さ 集団生活の向上	3-(3) 4-(1)	正義、公正公平 自主自律	4-(4) 1-(3)	家族愛 人間愛と思ひやり	4-(6) 2-(6)

5. 特別活動

1. 学級活動

(1) 指導目標

学級生活における諸問題の解決や、係活動の充実を図ることにより、協力して規律正しい学級生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。

学校生活への望ましい適応を図り、心身の調和のとれた発達を促す。さらに個性の伸長と進路選択に関する積極的な態度を育てるとともに、お互いをささえ合う集団の育成をはかる。

(2) 本年度努力点

- 学級目標を設定し、実践する。
- 係活動を活発にする。
- 生徒の自主的な活動と教師による指導との調和をはかる。
- 基本的な生活習慣を身につけさせる。

(3) 実施計画（活動計画等）

① 留意点

他の教育活動（各教科、道徳、生徒会活動、他の特別活動）との関連を図る。

② 年間指導計画

月	1 年	2 年	3 年
4	明るい学級づくり 中学生になって 学級・学年目標に基づいて 基本的な指導 係の決定 生徒会・部活動の紹介 学級役員選出 清掃指導 学級生活と学級秩序の確立	明るい学級づくり 二年生の立場と役割 学級役員選出の指導 係の決定 服装指導 清掃指導 学級生活と学級秩序の確立	明るい学級づくり 最上級生として 学級役員選出の指導 係の決定 服装指導 清掃指導 学級生活と学級秩序の確立
5	学級の申し合わせ 教育環境の整備 中学生の勉強 家庭訪問と事後指導	教室環境の整備 家庭訪問と事後指導	教室環境の整備 家庭訪問と事後指導 進路指導
6	校外学習指導 生徒会と私たち（生徒総会に向けての取り組み） テストの受け方 夏服装指導 教育相談	校外学習指導 生徒会と私たち（生徒総会に向けての取り組み） 夏服装指導 教育相談	校外学習指導 生徒会と私たち（生徒総会に向けての取り組み） 夏服装指導 教育相談
7	夏休みの過ごし方 校内大会参加と指導	夏休みの過ごし方 校内大会参加と指導	夏休みの過ごし方 校内大会参加と指導

月	1 年	2 年	3 年
8			
9	服装指導 生徒会役員改選に伴う取り組み	服装指導 生徒会役員改選に伴う取り組み	服装指導 学級委員改選とその指導
10	1学期を振り返り、2学期へ向 けての取り組み 校外学習指導 学級委員改選とその指導	1学期を振り返り、2学期へ向 けての取り組み 校外学習指導 学級委員改選とその指導	1学期を振り返り、2学期へ向 けての取り組み 宿泊研修指導
11	学習発表会 教育相談	学習発表会 教育相談	学習発表会 教育相談 受験期の心と体
12	冬休みの計画	冬休みの計画	冬休みの計画 進路指導
1	進路指導	進路指導	進路指導
2	学習のまとめ 教育相談	学習のまとめ 教育相談	三年間の思い出をまとめよう 新しい進路と充実した生き方 進路指導
3	一年間の反省 卒業式参加の心得 校内大会参加とその指導 思い出を残そう	一年間の反省 卒業式参加の心得 校内大会参加とその指導 思い出を残そう	一年間の反省 卒業式にのぞむ態度

6. 総合的な学習

(1) ねらい

- ① 学び方やものの考え方、主体的・創造的に問題解決する能力や態度を育てる。

主体的、体験的、問題解決、探求的な活動を通して、課題を見つける力、多様な情報を活用する力、表現する力、評価する力などを養うことをねらいとする。その際、生徒自らが学習活動を作り出していく。

- ② 自己の生き方を考える力を育てる。

自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく活動の中で、自分の生き方を考える場面を位置づけ、自然や社会との関わり方、自分の生き方についての自覚を深める。

(2) 学習内容

- 国際理解、情報、環境、福祉・健康、人権などの横断的・総合的な課題。
- 生徒の興味・関心に基づく課題。
- 地域や学校の特色に応じた課題。
- 進路学習に関わり、自己の生き方、職業観に応じた課題。
- 創造力を高めるための課題。
- 仲間づくりに基づく課題。
- 命の尊さに基づく課題。
- 自主性を高めるための課題。

(3) 学習活動

【問題解決的な学習】問題の発見・設定・追求

学習したことを整理、発表する。

【体験的な学習】自然体験、社会体験

見学・調査、発表・討論、ものづくり・職場体験など。

※ 地域の教材、地域の学習環境を積極的に活用する。

(4) 学習形態

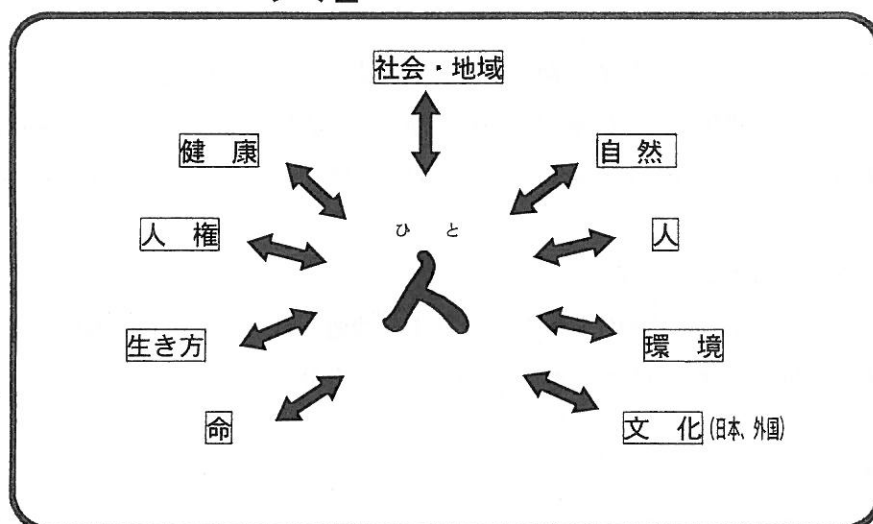
個人学習、グループ学習など多様な学習形態の工夫をする。

(5) 指導形態

地域の人々の協力も得つつ、全職員が一体となって実施する指導体制の工夫をする。

(6) テーマ

メインテーマ：『人』



(7) 年間計画

	1 年生	2 年生	3 年生
4 月			
5 月	安全について	安全について	安全について
6 月	校外学習	校外学習	校外学習
7 月			
8 月			
9 月			
10 月	校外学習	職場体験	宿泊研修
11 月	学習発表会	学習発表会	学習発表会
1 月			
2 月	進路について	進路について	進路について
3 月			

○ 指導の重点（ねらい）

3年

国際理解

☆日本の社会や文化、風習などを知るとともに、世界各国の様子をいろいろな角度から学習し、国際人としての感覚を養い、国際的な視野に立って物事を考えたり行動したりできる生徒を育てる。また、国際情勢を知るために基礎的な英語力を身につけさせる。	年 35時間
---	--------

月	学 習 内 容			
4	前期	9	後期	1
5	英語資料集や新聞を	10	・自分のテーマを	2
6	読んで、世界情勢や現在	11	決めて、レポート	3
7	の日本の様子を知る。	12	を作成し、発表する。	
			・基礎的な英語力を身につける。	

○ 指導の重点（ねらい）

2年

国際理解

☆ 日本の社会や文化、風習などを知るとともに、世界各国の様子をいろいろな角度から学習し、国際人としての感覚を養い、国際的な視野に立って物事を考えたり行動したりできる生徒を育てる。	年 35時間
☆ 世界共通語である英語力の向上を計り、英語を使って表現したり、コミュニケーションをする能力を養う。	

月	学 習 内 容			
4		9		1
5	・身の回りの事柄について英語で紹介しよう。	10	・世界の国々について知ろう。	2
6	・日本の生活や文化を紹介しよう。	11	・英会話に親しもう。	3
7		12		

○ 指導の重点（ねらい）

3年

環 境

☆中学生の視点で、公害、地球環境、資源、エネルギー、食料、人口などの地球規模の問題について知り、それらを解決する努力とその方法について多角的に考えさせる。

年 20時間

月	学 習 内 容			
4		9		1
5		10		2
6		11		3
7		12		

環境問題など地球規模の問題について書物やDVDを通して知り、自分たちが、どう関わっていけばよいのか考え、レポートにまとめる。

○ 指導の重点 (ねらい)

1 年

自己表現

☆ 身近な物を表現へと結びつけることによって内面を引き出す手がかりとする。	年 7. 5 時間
☆ 制作する喜びを味わう。	

月	学 習 内 容				
4		9		1	
5		10		2	和歌山や地域のポスターを作ろう。 (デザイン八つ切り画用紙に製作)
6		11		3	
7		12			

○ 指導の重点 (ねらい)

1 年

総合芸術鑑賞

☆音楽、美術、舞踏、文学などが一体となった総合芸術であるミュージカルの鑑賞を通じて様々な芸術の要素を味わう。	年 7. 5 時間
--	-----------

月	学 習 内 容				
4		9		1	
5		10	ミュージカル「サウンドオブミュージック」の鑑賞を通じて様々な芸術的要素を味わう。	2	
6		11		3	
7		12			

○ 指導の重点 (ねらい)

1 年

心身の発達と健康

心身の発達に関心を持たせ、向上発達させるためにはどうすればよいか考えて実践する力を養う。	年 15 時間
--	---------

月	学 習 内 容				
4	スポーツテスト	9		1	体ほぐしの運動で、体と心をのびやかにしてスポーツを楽しむ
5		10		2	
6		11		3	
7		12			

○ 指導の重点 (ねらい)

2 年

環 境

健康と環境について身体の適応能力の限界や生活環境が健康に影響をおよぼすことなど理解し、行動する力を養う。	年 15 時間
--	---------

月	学 習 内 容				
4	スポーツテスト	9		1	・地球環境問題について学習する。
5		10		2	・テーマを決定し深めていく。
6		11		3	・発表する。
7		12	和歌山市の現状を知る。(水、空気、音、廃棄物等)		

○ 指導の重点（ねらい）

3年

健康な生活

☆食生活と運動、休養との関わりなど正しく理解し、行動する力を養う。	年 15時間
-----------------------------------	--------

月	学 習 内 容			
4	スポーツテスト	9	1 2 3 ・生活習慣病について	エイズ、たばこの害、シンナー、アルコールについて 〔知識を得る→調べ学習 (テーマ決定)→発表]
5		10		
6		11		
7		12		

7. 人 権 教 育（同和教育）

1. 目 的

基本的人権を尊重する精神を全ての教育活動の中で養うと共に、同和問題をはじめ、あらゆる差別を克服し、民主社会の主権者にふさわしい資質と能力を身につけた人間の育成を目指す。

2. 目 標

- (1) 豊かな人間性を培い、確かな学力と教養を身につけ、人間として主体的に生きる力を育む。
- (2) 基本的人権と民主主義の思想、平和な社会の尊さを深く認識させる。
- (3) 人権を大切にする意識と感性を磨き、科学的な認識を深め、人権認識を確かなものにさせる。
- (4) 学校生活や身の回りでおこった人権侵害の事実を見逃すことなく、教育の課題として解決していく。
- (5) 学級活動・生徒会活動など自主的な活動を通して、生徒の人権意識や仲間意識（友情・協力・連帯）を高め、民主的な学級・学校づくりをめざす。

3. 人権学習各学年の指導計画

		1 年	2 年	3 年
ね ら い		身のまわりの不合理、偏見、差別に気づかせ、みんなで解決する態度と能力を養い、人権の大切さを考えさせ、正しく判断できる人間を育む。	人権意識を高め、身の回りの問題や歴史学習をふまえ同和問題をはじめとするさまざまな差別について、科学的な認識を身につけさせ、正しく判断でき、行動できる人間を育む。	憲法・教育基本法の理念を学ぶ中で、同和問題をはじめ、人権問題や社会問題の解決への展望を明確にさせる。そして、自分の権利に目覚め、人間として生きる力を身につけさせる。
	共通目標	学 級 集 団 づ く り ひとりひとりの人権を保障し、仲間を大切にする学級集団づくりをする。		
		1 年	2 年	3 年
教 材	1 学期	前半 「特別支援学級」について 仲間づくり 人権の大切さ いじめについて 後半 平和教育	「特別支援学級」について 仲間づくり 人権の大切さ いじめについて 平和教育	「特別支援学級」について 仲間づくり 人権の大切さ いじめについて 平和教育
	2 学期	前半 「言葉の重み」について 後半 障害者問題 人権のまとめ	「言葉の重み」について 差別の科学的な認識 障害者問題 人権のまとめ	差別解消への展望と自らの生き方 障害者問題 人権と社会問題

4. 具体的なとりくみ

- (1) 「やさしい心と思いやり」をテーマとし、各学年の「ねらい」に基づき、特設人権学習にとりくむ。
- (2) 人権にかかわる問題がおこった場合、次の点に留意する。
 - ① 教育課題としてとりくむ。
 - ② 基本的人権を守る観点に立ち、自主的・民主的に解決をはかる。
 - ③ 問題発生後の指導を大切にするとともに、人権教育部にも報告する。
 - ④ 必要に応じて対策委員会を設置する。
 - ⑤ 全体指導をおこなう必要が生じた場合は、十分検討して適切に教材化して学習させる。

8. 健康安全・性教育

1. 目標及び目的

- (1) 基本的生活習慣を身につけさせる。
- (2) 自らの健康を守り、保持増進させるための知識を身につけ、実践する能力を養う。
- (3) 生命の尊さを自覚させ、心身の健康を保ち、より豊かな人間性の高揚をめざす。

2. 方針

- (1) 保健体育学習との連携において、健康安全についての知的理解を深め、具体的な実践態度を身につけさせる。
- (2) 交通規則を守り、積極的に事故防止につとめるとともに、自分自身を安全に保つのみでなく、社会活動をおしすすめる習慣態度を身につけさせる。
- (3) 健康診断の結果より、自分自身の心身の発達状態を知り自分の健康度をつかませる。
- (4) 個人および集団の健康を保持するための活動を積極的に行い、健康を求めてやまないたくましい実践能力を身につけさせる。
- (5) 性の加速度現象にともなう正しい性の理解と、それに対処できる能力を身につけさせる。
- (6) 男女の特質と、人間としての平等性を理解させ、望ましい協力関係を気づかせる。
- (7) 新しい世代の育成に対する責任と自覚を促し、個と社会の連帯感や認識を深めることにより、性に対する価値観を高め生命の尊さを自覚させる。

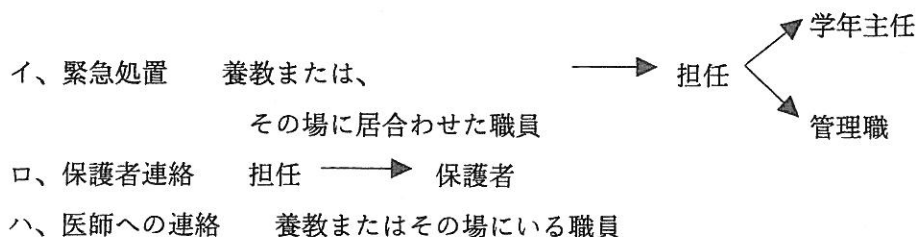
3. 指導上の留意点

保健体育の学習指導との関連を密にし学校行事等、全教育課程の有機的な全体計画のもとに組織的・継続的に指導する。

4. 本年度の努力点

- (1) 健康診断後の事後措置の徹底。
- (2) 性教育（エイズ教育を含む）に関する教職員生徒の意識を高める。
- (3) 各教科・道徳との関連性を深める。

5. 保健緊急連絡体制



・ けが人、病人の搬送について

(1) タクシー利用（タクシー券利用）

タクシー利用できない場合（教頭の指示を受け適当な方法を取る）

救急車利用

(2) 教職員が必ず付き添う

イ、授業中、休憩中 —— 居合わせた職員または養教

ロ、クラブ活動 —— クラブ顧問またはその場に居合わせたもの

6. 行事計画

月	行 事 内 容
4 月	・定期健康診断（身体測定及び視力、聴力検査） ・ “ （内科検診、歯科検診、結核検診、眼科検診、耳鼻科検診、学年別の日程で実施） ・定期健康診断についての保健指導 ・机・イスの調整 ・尿検査 ・レントゲン間接撮影（教職員）
5 月	・尿検査 ・レントゲン精密検査
6 月	・歯みがき指導（1年） ・心電図検査（1年） ・むし歯予防に関するポスター作成、むし歯の実態調査と統計 ・定期健康診断事後指導 ・文科省、体格及び疾病統計
7 月	・水質検査 ・体位及び疾病統計調査 ・夏の保健指導 ・疾病治療票配布 ・夏期休暇中の安全生活の指導 ・思春期講座（2年）
8 月	
9 月	・たばこ・薬物防止教育 ・心臓検診
10 月	・3年生の宿泊研修にともなう健康についての事前調査と相談および指導
11 月	
12 月	・冬休みの安全生活指導
1 月	・職員健康診断
2 月	・空気検査 ・AED救急処置講習
3 月	・1年間の反省及び次年度の計画立案 ・学校保健委員会

9. 進路指導

1. 目 標

進路指導の諸活動を通して、生徒自らが適正その他の諸条件に応じて進路を選択、決定する能力を養い、将来への希望と自信をもって進む態度を育てる。

2. 方 針

- (1) 学級活動の中核として教科、道徳、学校行事等全教育課程の全体計画の下に組織的、継続的に指導する。
- (2) 生徒に個人資料、進路情報、教育相談を通して、個性の自覚とその進展をはかり、進路についての理解を深める。
- (3) アフターケアにも十分配慮する。
- (4) ハローワークとの連絡を密にしていく。
- (5) 各学年で生徒の発達段階に応じた進路指導を行う。

3. 年間指導計画

〔1学年〕○進路への関心

主 題	目 標
私 の 抱 負	進路選択への関心を深める。
な り た い 職 業	自分の進路について、真剣にとりくむ態度を養う。
進 路 の 計 画	進路計画の必要性を理解する。

〔2学年〕○進路設計

主 題	目 標
職業観の基礎形成	自己を見つめ、自己の適性について考えを深める。 様々な職業について理解を深め、職業観の基礎形成を培う。
人間としての生き方	“夢”とは何かということを職場体験学習をもとに考える。
いろいろな職業 上級学校の特色	・産業分類や職業分類を理解し、集団社会への適応性を養う。 ・現在の学校制度や各種学校等について理解する。
最高学年への決意	自分自身の進路設計に検討を加え、より明確なものとしていく。

〔3学年〕○適切な進路の選択

主 題	目 標
進 路 計 画	個性をよく理解し、自己の進路選択を明確にする。
進 路 決 定 受 験 の 心 構 え	・就職・進学機会と内容について理解し進路を決める。 ・受験の心構えと就職・進学に必要な諸手続きについて理解する。
卒 業 後 の 進 路	新しい生活と中学校生活との違いを知り、将来に向けて、より具体的に考える。

10. 教育相談・生徒指導

1. 目 標

望ましい生徒像「自分で考え、実践し、責任を果たす生徒」の育成に基づき、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長をはかる。また、いじめのない望ましい人間関係の育成と自主的で意欲的な生活態度を培い、自己の行動と責任を持つ態度を培う。

2. 方 針

(1) 生徒指導の留意点

① 基本的な生活習慣、しつけの指導

- 具体的な指導内容を決め、教師の共通理解の上に規律ある生活をさせる。

② 個人指導の強化

- あらゆる場（教科、道徳、総合、創意、部活動、学校行事等）での生徒指導の強化。特に、教科指導の中で、個々の生徒にふれる指導を進める。
- 教育相談活動の充実をはかるために、教師と生徒の心のふれあいをもとに、生徒理解を深める。

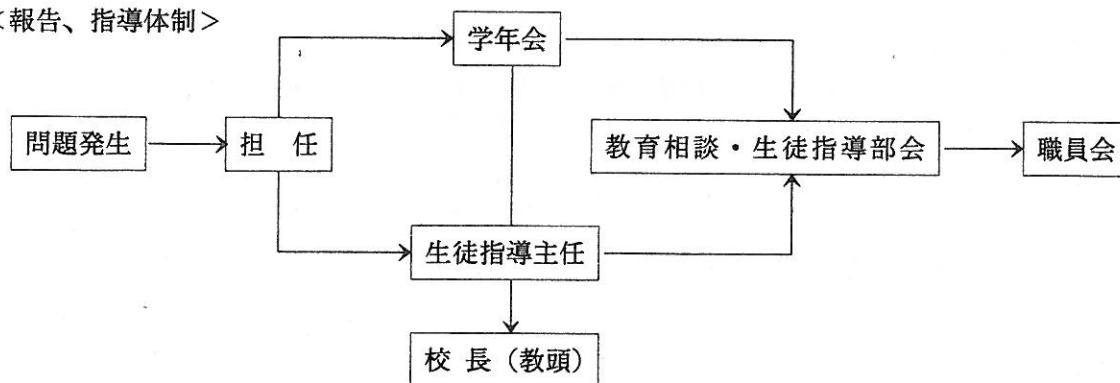
③ 集団指導……学級づくり、集団づくり

ひとりの問題をみんなの問題として考える集団をつくる。小さなことも見逃さず、集団の問題として考えさせ、集団のモラルを高める。

④ 問題行動に対する指導

- 生徒理解を深め、問題行動の早期発見と早期解決に努める。
職員会、学年会、現職教育等の機会を通じて問題行動の共通理解を深める。
- 理解は単なる同情や放任に終わらず、愛情を持った厳しい指導と激励を継続して行う。
- 学校と家庭の連絡を密にすると共に、関係機関との密接な連絡をはかる。
- 問題行動やその他の処理については、学級担任を交えた複数教員が指導にあたる事を原則とする。
- 「報告」「連絡」「相談」「確認」を密にし、教員相互の生徒理解にあたる。

<報告、指導体制>



(2) 全教職員の研修

(3) 生徒指導における家庭への啓発

3. 具体的な指導計画

- ① 各種調査を行い、生徒や地域の実態をつかむ
- ② 教育相談週間の設定をする。
- ③ きまりを守らせる……服装、頭髪、遅刻等
- ④ 生徒会との連携……自主性、自立性を伸ばす
- ⑤ 生活設計、余暇利用の指導をする。
- ⑥ 家庭、地域との連携をする。

4. 目標実現のために

「一人ひとりを知り、個のよさを生かす生徒指導（生活指導）に徹する」

5. 年間指導目標

	目 標
1 年	・基本的な生活習慣を考え、自律的に向上させようとする態度を養う。 ・生徒理解や教育相談を充実する。
2 年	・共通理解のもとで、基本的な行動様式や望ましい生活習慣を定着させる。 ・家庭との連絡を密にするとともに、保護者面談での話し合いの充実に努める。
3 年	・基本的な生活習慣の徹底を図り、節度ある言動と責任ある行動に努める。 ・学年だより等を通して、家庭の連携強化に努める。

年間生活目標

『みんなが気持ちのよい生活をしよう！』

月別生活目標

月	生 活 目 標
4	あいさつで心をつなごう
5	着ベルを徹底しよう
6	清掃をして、心もみがこう
7	規則正しい生活リズムで過ごそう
9	集団の規律を守ろう
10	身だしなみをきちんとしてよう
11	あたたかい言葉で話そう
12	友だちのいいところを伝え合おう
1	身だしなみをきちんとしてよう
2	話をしっかり聞いて行動しよう
3	感謝の気持ちを伝えよう

11. 環境整備

目 標……お互いに協力しあって、学校の美化に努める態度を育てる。

努力点……・校舎内外をよごさないよう、又、ゴミ類は自分の手で処理するように心がける。

- ・分担区域は責任を持って美しくする。
- ・清掃用具、施設は正しく大切に使用する。
- ・整美委員会を中心に生徒の活動を組織する。
- ・長期休業及び卒業式の前に大そうじをする。

年間実施計画

1 学期	・清掃の分担区域の決定 ・用具の配分、修理、補充 ・大そうじ、落書き消し ・舎外清掃、草ひき
2 学期	・用具の点検 ・大そうじ ・落書き消し ・3 年生卒業をひかえての奉仕作業

12. 生徒会指導

目標	生徒1人1人が会員であることを自覚し、各種活動に主体的に取り組み、自主的な活動によって学校生活を向上させる。
本年度努力点	1. 学級委員会を中心とし、行事の計画的運営をおこなわせる。 2. リーダーを中心として、日常生活の充実をはかり、リーダーを養成する。
指導上の留意点	1. 討議の深まる原案作成ができるように学級委員会を指導する。 2. 各専門委員会で正・副委員長が中心となり活動できるようにする。 3. 学年に応じた取り組みを積極的にすすめるようにする。
生徒会組織図	<pre> graph TD A[生徒総会] --> B[執行部会] B --- C["生徒会三役 専門委員長 専門副委員長"] B --> D["学級委員会 専門委員会"] D --- E["(報 図 保 整 風 道 書 健 体 育 美 紀)"] </pre>

(1) 生徒会専門委員会運営計画

<運 営 方 針>

学校生活全般にわたって、自主的な生徒会活動実践の原動力となる委員会活動を組織する。

	具 体 的 活 動	行 事 計 画
学級委員	1. 学級内の諸問題を取り上げ、解決を図るよう呼びかける。 2. 学級での意見をまとめ、代表として委員会に出席する。 3. 委員会で決定したことを学級で取り組むように働きかけ、討議したことは学級におろす。 4. 集会の時の集合・整列の指示をする。 5. 助け合い運動の意義をよく知り、積極的に運動に参加、協力する。 6. 緑の募金、赤い羽根の募金活動に協力する。	1. 学級委員会 …… 毎月1回
風紀委員	1. 学校生活を自分たちの力でより向上させ、規律ある生活をつくりだすための活動をする。 2. 遅刻をなくす運動、服装をきちんとする取り組みをする。 3. 現状の問題点を見つけ、改善のための話し合いをする。	1. 風紀委員会 …… 毎月1回 2. 校門指導 …… 月～金曜日
整備委員	1. よりよく学習できるように、よりよい環境づくりをする。 2. 清掃の徹底をはかり、特にゴミの始末を確実にできるように働きかけをします。 3. 清掃用具の点検・補充・修理します。 4. 大清掃の際用具の貸し出す。	1. 整備委員会 …… 毎月1回 2. 用具の点検 …… 随時 3. 用具の貸し出し …… 大そうじの時 4. 手洗い場のそうじ
保健体育委員	1. 体育の授業を先生と協力し、充実した学習ができるようにする。 2. いろいろの調査結果を保健だよりや掲示活動で知らせる。 3. 健康で充実した中学校生活を送れるような活動をする。 4. 校内大会の運営の補助をする。 5. 陸上競技大会の運営を補助する。	1. 保健委員会 …… 毎月1回 2. 石けんの配置 … 毎週1回
図書委員	1. 新刊書の紹介や図書室の利用のしかたを知らせる。 2. 図書の貸し出し・返却の業務をする。 3. 図書館で静かに読書できるように働きかける。	図書委員会 …… 毎月1回
報道委員	1. 校内の掲示をする。 2. 毎日お昼の伝達放送をする。 3. 行事の時の放送を担当する。	報道委員会 …… 毎月1回

(2) 生徒会・委員会年間活動計画表

(このほか月に一度、学級委員会・専門委員会が行われます。)

委員会 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
執行部	入学式 対面式 生徒会 部活動紹介		生徒総会	中体連出行会		生徒会役員 選挙 中体連壮行会				書きそんじ ハガキ集め		卒業式
学級委員会		緑の募金	生徒総会					赤い羽根の共同募金			緑の羽根の共同募金	
風紀委員会	(遅刻調べ、 校門指導) 手洗い場の そうじ	風紀ポスター 発行 (遅刻調べ、 校門指導)	生徒総会 (遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)		(遅刻調べ、 校門指導)	風紀ポスター 発行 (遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)	(遅刻調べ、 校門指導)
整備委員会	掃除道具点検 手洗い場の そうじ		生徒総会	用具貸し出し		掃除道具点検			大掃除の用 具貸し出し	掃除道具点検		大掃除
保健体育 委員会	ボールの貸し 出し(毎月) 欠席調べ (毎日)	石鹼変がえ 保健だより 発行(毎月)	生徒総会 陸上競技大 会の補助	校内球技大 会 ボール点検				ボール点検			3年球技大 会	1・2年球 技大会 ボール点検
図書委員会	図書の貸し 出し 本の整理	図書の貸し 出し 本の整理	生徒総会 図書の貸し 出し	図書の貸し 出し 本の整理		図書の貸し 出し	図書の貸し 出し	図書の貸し 出し	図書の貸し 出し	図書の貸し 出し	図書の貸し 出し	図書の貸し 出し
報道委員会	月1回の掲示 お昼の放送(毎日) 伝達放送(毎日)	月1回の掲示	生徒総会 月1回の掲示 陸上競技大会 のアナウンス	月1回の掲示		月1回の掲示	月1回の掲示	月1回の掲示 学習発表会の アナウンス	月1回の掲示	月1回の掲示	月1回の掲示	月1回の掲示

13. 視聴覚教育

1. 指導目標

- (1) 教育機器を利用し、生徒の能力、適応に応じた指導法を研究する。
- (2) あらゆる分野の芸術に興味を持ち、文化的な生活経験を豊富にするよう心がけ、そういう機会を積極的に与える。

2. 努力目標

- (1) 教育機器の利用
 - ① 教育機器を整備し、設備の充実をはかる。
 - ② 視聴覚機器を活用する。
- (2) 放送
 - ① 各分野の必要に応じ、放送時の態勢をととのえる。
 - ② 放送に必要な設備の拡充をはかる。
 - ③ 放送をしっかりと聞く態度を養う。
- (3) 掲示（板書）
 - ① 各教科、各部の協力を得て玄関、廊下の掲示板などへ掲示し、社会の動き、科学、技術の進歩、季節の行事などに関心を持たせる。
 - ② 掲示板ならびに掲示黒板を利用し、伝達の能率化と徹底をはかる。
- (4) 音楽、映画、演劇の鑑賞

時間のゆるす限り多くの機会を利用して生の芸術にふれ、感動することによって情操を深め、鑑賞能力、態度を身につけるようにする。

14. 図書館教育

1. 方 針

図書館教育を通して自学自習の態度を養い、生涯学習に向けての読書活動を身につけ、豊かな人間形成に努める。

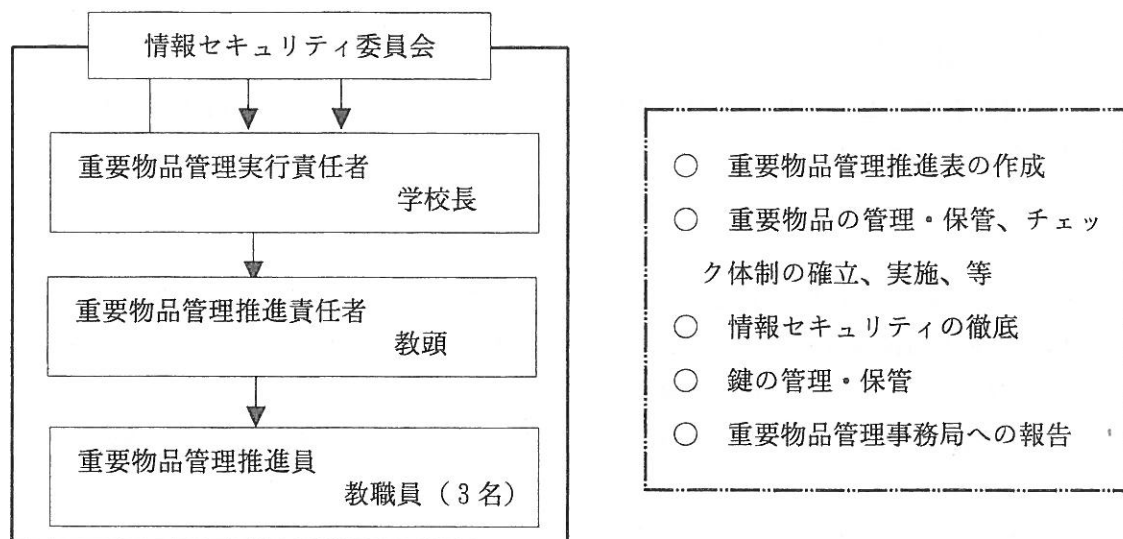
2. 目 標

- (1) 図書委員会の活動として、分担性と当番性を採用し、生徒の利用度を高める。
- (2) 読書の習慣を養う。興味に応じて生活の中に読書を定着させる。
- (3) 調べ学習に図書を活用する態度を身につけさせる。
- (4) 社会性を発達させる。図書館のきまりを守り、人に迷惑をかけない態度を養う。

3. 本年度の努力点

- (1) 調べ学習に活用できる図書を充実させる。
- (2) 心を豊かに養い育てる読み物を、生徒の希望も取り入れて購入する。
- (3) 図書室の設備を充実し、読書環境を良くする。

15. 情報セキュリティ



1. 目的

高度情報化社会へと進展するこれからの社会にあって多くの情報を適切に判断し、社会の変化に主体的に対応しながら創造的に生きていける能力を身につけた人間を育てる。

2. 教育の方針

- (1) 一人ひとりの能力・適性が多様であるため、情報の単なる受け手ではなく、生徒自ら主体的に情報手段を活用できる能力を育てる。
- (2) 多様な情報の中から自分の求める情報を選択し、役立てていく能力を育てる。

3. 指導の方針

- (1) 社会科においては、情報と人間との関わり、及び情報の重要性や適切な活用について考えさせる。
- (2) 数学科においては、必要に応じコンピュータを効果的に活用するよう配慮する。
- (3) 理科においては、必要に応じ（観察・実験のプロセスでの情報の検索、データの処理、計測など）コンピュータを効果的に活用する。
- (4) 技術・家庭においては、「情報とコンピュータ」でコンピュータの操作等を通して、その役割と機能について理解させ、情報を適切に活用する基礎的な能力を養う。
- (5) その他の教科等においても積極的なコンピュータの活用について研究する。

4. 留意点

- (1) 全教職員の研修を立案・計画し、実践する。
- (2) ソフトウェアの充実をはかる。
- (3) インターネットを利用した情報発信や情報収集におけるモラルについて、生徒によく理解させるようにする。
- (4) ユーザIDやパスワードの大切さを指導する。
- (5) パソコンを積極的に活用する。

16. 国際親善

1. 目 標

- 和歌山市の国際姉妹都市カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州リッチモンド市にあるバーネット中学校と文化交流を通じて相互理解を深め尊敬と友情の絆を強めると共に生徒に国際的視野に立った考え方を身につけさせる。
- 世界各地に視野を広げて国際理解をすすめていく。

2. 努力点

- 姉妹校 JNBurnett 校との交流を通じ、お互いの文化を理解し親交を深めていく。
- カナダ国の地理的な感覚や風習等を調べ、これからの時代を生きるための国際感覚を育てる。
- 単語力を増やし、英語に親しみを持つと同時に、会話してみようとする意欲を持たせたり表現力を高めたりして英語学習に対する関心を高める。
- 主として、総合的な学習を通じて取り組みを進めていく。

年間計画

訪 問 年 度			受 け 入 れ 年 度	
	日本で	カナダに	日本で	カナダに
4	第2回保護者会、事前学習	自己紹介カードを送付	4	ホームステイの保護者会
5	カナダ親善訪問		5	歓迎式典、ホームステイアンケートと御礼状の配布
6	親善訪問の記録集の原稿作り		6	ホームステイアンケート集約
7	帰国報告会、会計報告		7	
8			8	
9	親善訪問記録集の原稿の印刷		9	ホームステイアンケート結果の配布
10			10	
11	学習発表会で帰国報告		11	次年度に訪問する生徒の募集
12			12	第1回ミーティング
1		ホームステイ名簿を聞く	1	第1回保護者会
2	ホームステイ協力依頼		2	事前学習
3	ホームステイ先決定		3	事前学習

- 毎年、1～3月 訪問受け入れの人数、日程の詳細についてカナダと連絡を取り合う。
- 毎年、4月に国際親善の取り組みについて、職員会議で全職員に（主に新職員に知らせること）。また、学活で、新1年生に伝える。

17. 特別支援教育

1. 目的

障害のある生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うことを目的とする。

2. 目標

- ① 健康な体をつくり、生命を大切にできる力を育む。
- ② 自らの願いや要求を明らかにする力を育て、その願いや要求を実現していく力を育む。
- ③ 自ら見通しを持って、毎日継続して取り組める力を育む。
- ④ 一人一人の発達課題に合わせて、しっかりとした基礎学力を育む。
- ⑤ 将来の生活を豊かにする文化、スポーツ、芸術に親しめる力を育む。
- ⑥ 広く社会生活を営む力を育む。

3. 運営上の留意点

- ① 特別支援学級（少人数学級）を全職員の理解と支えの中で運営できるように取り組む。
- ② 障害児の健康と学習を保障するため、教育・医療・福祉機関との連携を図る。
- ③ 障害児の人権ならびに進路の保障を図るため、人権教育・進路指導・生徒指導との連携を密にする。
- ④ 通常学級で学ぶ「特別な教育的支援」を要する生徒の把握を行い、担任と連携し、通級による指導も含め、自立を支援するための教育体制を検討し、実施する。
- ⑤ 機会あるごとに、保護者への特別支援教育に対する理解を深める努力をする。
- ⑥ 全職員の特別支援教育についての研修を計画し、実施する。

4. 特別支援教育指導研究部の役割

- ① 特別支援学級（少人数学級）の運営上の留意点等の検討。
- ② 時間割作成、交流教科、交流時間等のカリキュラム編成の検討。
- ③ 教育評価の検討。
- ④ 個別の指導計画の作成。

18. 部 活 動

1. 目標及び努力点

- (1) 生徒の自主的な活動を活発にするため、適切な指導・助言を行う。
- (2) 綿密周到な学習（練習）計画に基づいて、探究的、合理的、継続的、自治的な活動を行わせる。
- (3) 部活動で習得した規律や自主性を授業や学級、学校の諸活動に反映し、諸活動の中心的役割を果たせるようにする。

2. 留 意 点

- (1) 短時間に能率をあげられるようにする。
- (2) 用具を大切にし、練習場や部室の整美（備）整頓に努める。
- (3) 規律ある行動と根気を養う。
- (4) 安全に留意する。
- (5) 部員の協力と相互の人間関係を深める。
- (6) 他の部とも協調し、練習時間や活動方法など、部活動のルールをきちんと守る。
- (7) 家庭との連絡を密にして理解と協力のもとに活動を進める。
- (8) 勝つことだけに重点をおかず、それぞれの個性を伸ばし、成功の喜びを味わう。

3. 申し合わせ事項

(1) 練習について

① 終了時間…… 1学期 6時30分まで

2学期 6時00分まで

とする。但し、顧問のついている場合は、その指示に従う。

② 休日は、顧問のついていない部の練習は認めない。

③ 早朝練習については、生徒の健康・安全について十分考慮し、保護者との連絡も密にし慎重に行う。

(2) 着替えは指定された場所を使用する。

(3) 練習場所の清掃、消灯、戸締まりは責任をもって行う。

(4) 体育部、文化部はそれぞれ特色があるので、別に申し合わせをする。

＜例1＞体育館使用後の清掃、消灯、戸締まりの割り当て。

＜例2＞長期休暇中の使用場所、時間の割り当て。

(5) 入部、退部申し込みについて

① 担任を通して顧問へ提出する。

② 入・退部とも保護者の承認を得て届を提出する。

4. 部活動実施について

部活動は、文部科学省より示された教育課程の中には位置づけられていない課外活動である。しかし、特に共通の興味・関心を持つ者が集まって、自分の能力・適性を伸ばし、自主性や協調性・積極性などを育てる教育的意義は大きく、生徒の参加希望や保護者からの設置要望が強い。

ところが、近年本校生徒数の減少に伴い、教職員数が少なく、各部における専門的指導者の絶対数が不足している。

しかし、部活動の休部や廃部も検討しなければならないが停止という事態だけは避けたいと考え、技術指導はできなくても、顧問を置いて生徒の部活動がスムーズに行われるよう努力している。

以上のことを十分理解し、下記の点に留意しながら実施する。

- (1) 体育部は、運動場が狭いために、すべての部が十分な活動が望めないこと。このため、部によっては校外で練習する場合もあること。
- (2) 前述のように、指導のための専門教員がそろわず、特に技術面の指導ができない部があること。
- (3) 校務その他のため、常に指導にあたることの不可能な場合や、部によっては連日の練習ができない場合もあること。
- (4) 生徒は、生活指導上、顧問及び先生の指導にはよく従うこと。
(勝手な行動、服装等の乱れについては厳しく指導する。)
- (5) 部活動終了時刻を厳守すること。また、部活動終了後、すばやく後かたづけ、着替えをして、帰宅が遅くならないよう各自留意すること。

終了時刻	…… 1 学期	6 時 30 分まで
	2 学期	6 時 00 分まで

- (6) 大会、コンクール等の直前の練習については、多少の時間延長、一定期間の早朝練習を認める場合もあること。
- (7) 長期休業中の練習については、別に定めること。
- (8) 本年度設置している部は、指導者等により来年度必ず設置されるとは限らない。
- (9) それぞれの部に加入する生徒は、各学年とも別紙「入部申込書」に記入、押印のうえ学級担任へ提出すること。退部する場合は、顧問の先生とよく相談の上、必ず退部届を保護者の責任において提出すること。

5. 本年度設置部活動名・担当者

体 育 部	顧 問	文 化 部	顧 問
野 球		吹 奏 楽	
バスケットボール 男・女		美 術	
バレーボール 女子		技 術・無 線	
サ ッ カ ー		家 庭	
ソフトテニス 男・女		英 語	
硬式テニス			
空 手			
陸 上			

19. 防 災（自然災害・火災等）

1. 目 的

この計画は人命の安全確保を第一義とし、防災思想の普及並びに防火等管理の徹底を期し、もって火災、地震その他の災害による人的・物的被害をなくすることを目的とする。

2. 防 災 組 織

防災管理の最高責任者は学校長であり、各教室及び校地等の火元責任者は職員が分担して、これにあたる。（別表1：防災避難誘導経路図）

防災組織編成表

指揮係 校長 ——— 教頭

通報連絡係	教頭・[]・発見者
避難誘導係	[]・全教員
初期消火係	[]・男子教員
搬出係	[] 事務、校務
救護係	[] 養護

3. 日常防火管理

- (1) 火元責任者は、火気の使用に注意し、使用後の始末については十分に注意する。
- (2) 外来者が校舎を使用した場合、許可責任者は特に火気に留意するよう伝え、使用後は点検する。
- (3) 重要書類は耐火ロッカー内に保管しておくか、または常に明確に印をつけて、搬出のしやすいようにしておく。
- (4) 部外者の出入を防ぐため、出入口や教室の戸締まりを完全にする。
- (5) 電灯使用後は必ず元スイッチを切るようにする。
- (6) 紙くず類は毎日処理し、ゴミ回収日までは清掃用具室に保管し回収日に始末する。

4. 非 常 措 置

- (1) 火災の発見者及び受信者は職員の応援を求め、初期の消火に努めるとともに、直ちに学校長または教頭に知らせる。また状況を判断して敏速に119番へ通報し、市教育委員会に報告する。
- (2) 火災の規模によっては非常サイレンを鳴らし、火災状況や避難場所を簡明に全校放送して避難命令を出すとともに、近接の民家や機関に火災の発生を知らせる。
- (3) 夜間または休日の場合に警備員は、連絡網を通じて全職員に連絡するとともに、前(1)(2)項の処置を可能な限り速やかにとる。

5. 避難誘導

- (1) 特に階上学級の生徒には、一応別表Ⅰの通りの避難経路を示しておくが、原則的には授業担当者の臨機の処置に委ねる。
- (2) 授業担当者は、指定された場所に速やかに生徒を誘導し（緊急を要しないときは、学習用具を携行させる）、人員点呼、負傷者の有無などを調べ学年主任に、学年主任は教頭に報告し、別に指示のあるまで授業担当者は生徒を監督し、安全をはかる。
- (3) 救護活動は、できるだけ集合指定場所付近に位置し、負傷者や被救助者の応急救護にあたる。

6. 強震誘導

強震の際は授業担当者の指揮により、所定の位置へ避難する。もし火気使用中の時は、その後始末を忘れないこと。避難する時は特に落下物に注意し、身体の安全に努める。急激な場合には幸福な避難を避け、一時機の下などしっかりした器物の下やかげにかくれる。

7. 防火教育と訓練

- (1) 防火思想普及のため、学級指導等の時間を通じて適宜指導する。
- (2) 学校生徒会において、防火思想普及のための話し合いをさせる。
- (3) 作文、ポスター、標語の作製をさせ、校内に掲示したり、公募のあるときは出品をすすめ、防火思想の高揚につとめる。
- (4) 避難訓練を毎年1回以上実施する。

8. 災害等を予想される場合の緊急措置

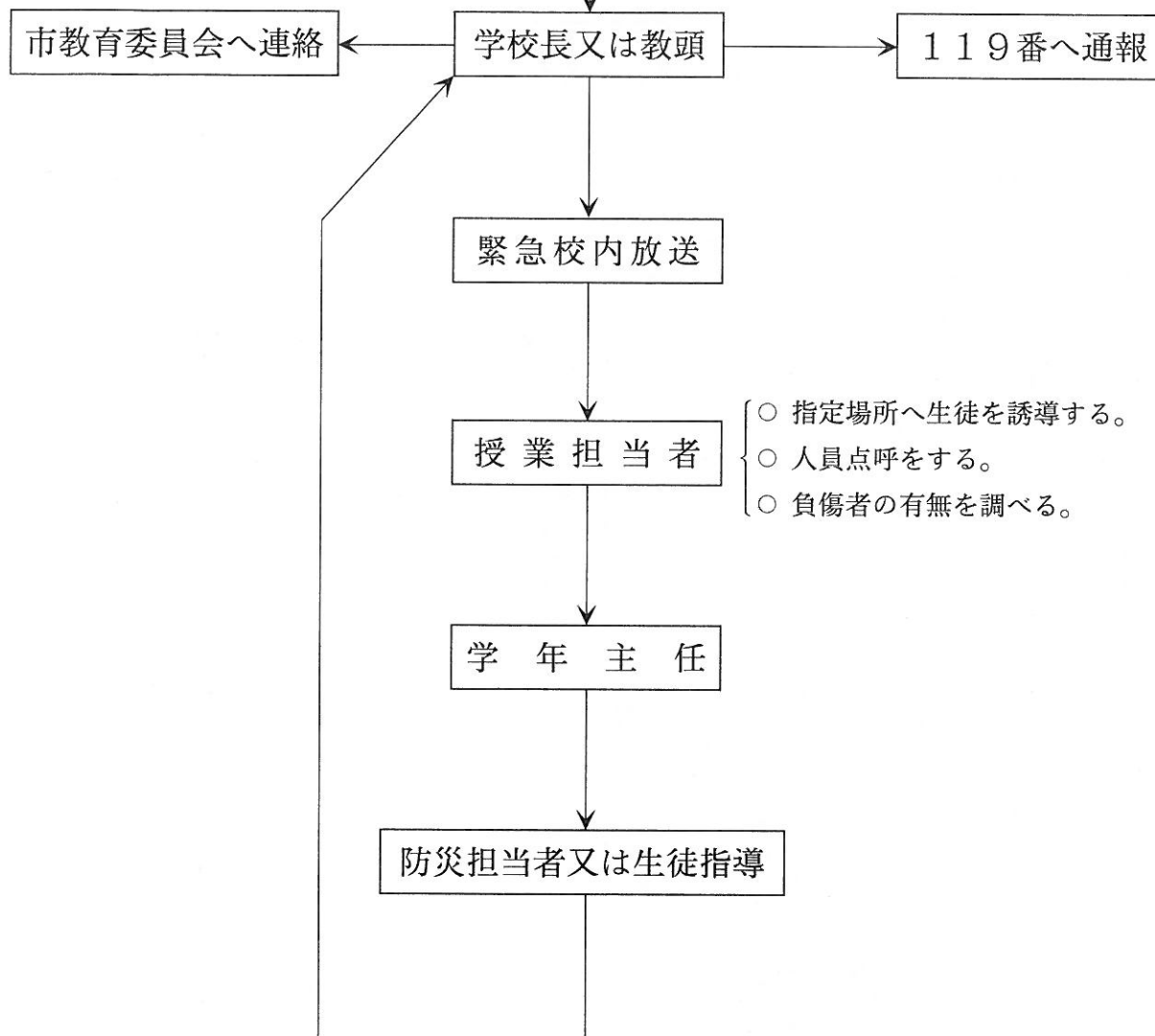
災害等予想される場合の暴風・大雨警報発令時の緊急措置について

- (1) **暴風警報** または **大雨警報** が当地区に発令された場合、生徒は自宅待機とする。
- (2) 上記 **注意報** の場合、学校は普通授業を行う。
- (3) 連絡
 - ① 警報発令の場合、学校から生徒へ連絡はしない。
 - ② 特に連絡を必要とする場合に限り連絡網を使用する。
 - a. 学校長 → 学年主任 → 各担任 → 学級連絡
 - b. 和歌山放送（ラジオ）から、随時放送によって連絡を流す。
- (4) 登校した生徒について
教室へ入れて、担任から事情説明等その他の措置をとる。帰宅させる場合は、時期等安全を考えて指示する。

9. 不審者対策

災害時の編成

火災・地震発生



【別表 1】防災避難誘導経路図



暴風・大雨警報及び地震発生時における臨時措置について

(1) 暴風警報や大雨警報が発令されているとき

警報が解除されるまで自宅で待機させてください。

＊ 注意報の時は平常通り授業があります。

(2) 暴風警報や大雨警報が解除されたとき

できるだけ早く準備をさせて登校させてください。

- ＊ ただし、警報が午前12時を過ぎても解除されない時は、休校とします。
授業が午前中だけで、午前10時を過ぎても解除されない時は、休校とします。
- ＊ 警報が解除された場合でも、次のような時は、登校させるには及びませんが、早急にその旨担任にご連絡下さい。

① 家庭・地区の被害状況からみて保護者の皆様が登校困難と判断された時

② 通学道路事情からみて保護者の皆様が危険もしくは登校困難と判断された時

(3) 震度5弱以上の地震が発生し、危険が予測される場合は、臨時休業にします。

(4) 上記以外にラジオ・テレビにより和歌山市小中学校に対して、特別措置が報道された時は、その指示に従ってくださるようお願いします。

[お願い]

常に情報に耳を傾けてください。学校への問い合わせをされますと重要な通信が出来なくなりますので、ご遠慮下さい。

平常授業が出来ない時は、弁当の販売はありませんので、昼食を持参して登校させてください。

